

# ビッグデータを活用した 訪日外国人の東京圏における 観光行動と鉄道利用に関する分析

研究員 松岡 美沙子

2021.7.5(Mon)16:20-17:00  
ベルサール御成門タワー

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

1. 背景と目的
2. 研究の進め方
3. 東京圏への訪問者数の推計
4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートの分析
  - 4-1 モバイル空間統計の概要
  - 4-2 分析結果
5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計
6. まとめと課題

## 1. 背景と目的

## 2. 研究の進め方

## 3. 東京圏への訪問者数の推計

## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光

### ルートの分析

#### 4-1 モバイル空間統計の概要

#### 4-2 分析結果

## 5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計

## 6. まとめと課題

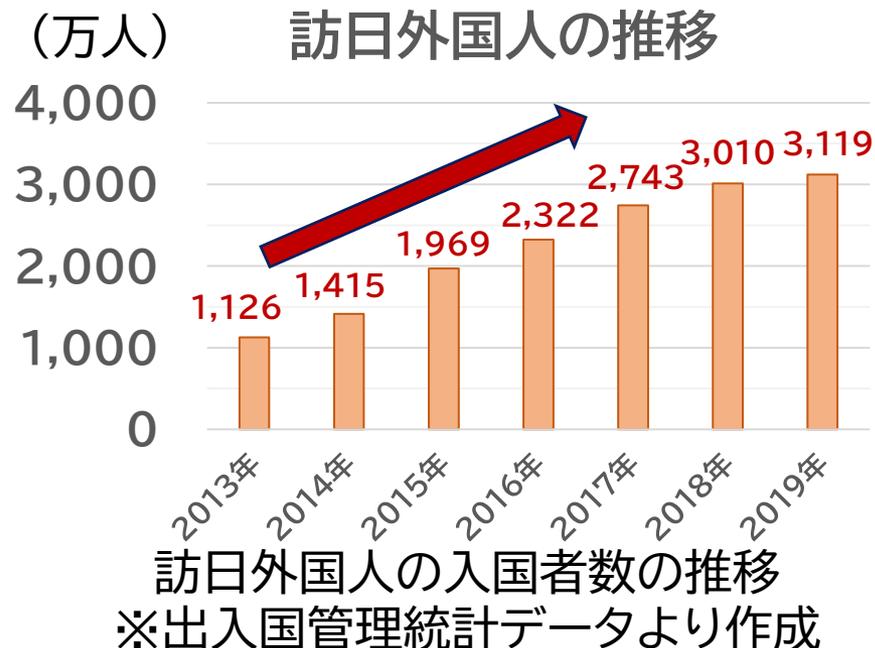
# 1. 背景と目的

## 訪日外国人の推移と本研究の目的

訪日外国人は、ここ10年ほど右肩上がりに推移している(右図参照)

訪日外国人の訪問地間移動や鉄道利用に関する分析データがない

官公庁による調査・統計やモバイル空間統計のデータを用いて、**国籍別の動向実態や鉄道利用状況**を分析する



### 知りたいこと

- 訪日外国人が東京圏で主に訪れている地区はどこか
- どのようなルートで観光しているのか
- 東京圏においてどれほどの訪日外国人が鉄道を利用しているか
- 国籍ごとで傾向は異なるのか

### 本分析結果の活用例

- 路線別や地区別の利用者特性(国籍等)に応じた訪日外国人向け戦略・施策検討
  - 訪日外国人向け受け入れ環境整備(券売機・掲示板等の多言語化、駅の混雑時間帯以外における観光誘導などオーバーツーリズム対策等)
  - 訪日外国人へのPR(企画切符や物販等の販売等)

# 1. 背景と目的

## コロナ禍の動向と今後について

- UNWTOの国際観光旅客数の将来推計では、2019年水準に戻るのは 2022~2024年頃と想定されている
- 各国でワクチン接種が進む中、海外旅行の再開を検討する時期はそう遠くはない

### 2021-2024 SCENARIOS

2 ½ TO 4 YEARS  
TO RECOVER 2019 LEVELS

#### INTERNATIONAL TOURIST ARRIVALS

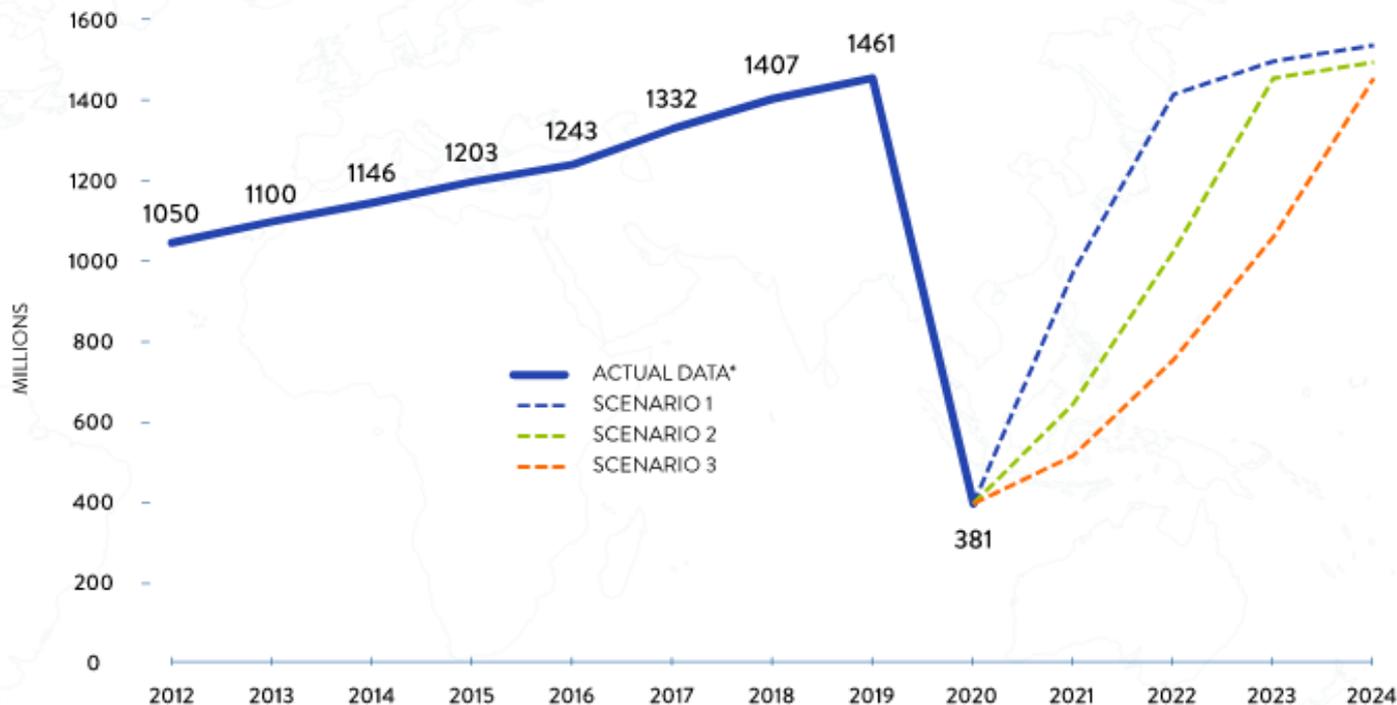
2019年水準の回復へは  
2.5~4年  
(国際観光旅客)

\* Actual data for 2020 is preliminary and based on estimates for countries which have not yet reported results.

※現在のデータは予備的であり、未だ通年の公表値がない国は予測に基づく。



SOURCE:  
WORLD TOURISM ORGANIZATION (UNWTO)  
JANUARY 2021

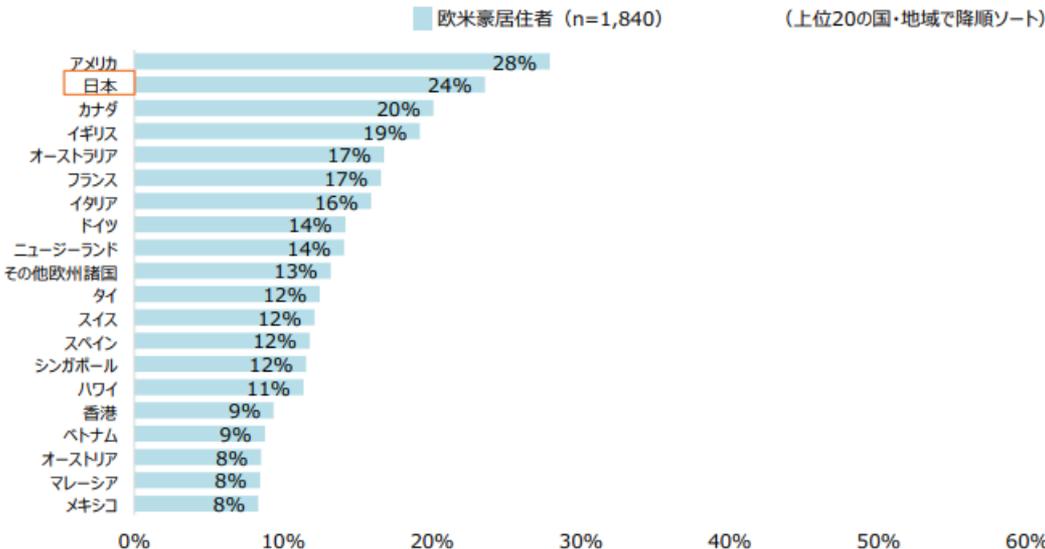
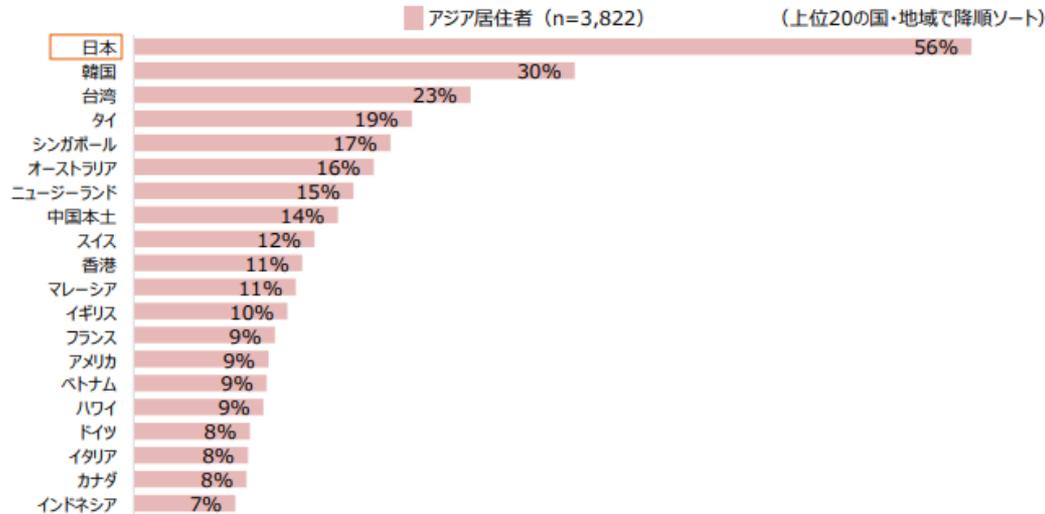


出典: UNWTO

# 1. 背景と目的

## コロナ禍の動向と今後について

海外観光旅行希望者※1 新型コロナの流行終息後に、観光旅行したい国・地域※2 (回答はあてはまるもの全て)



- 海外観光旅行先として、日本の人気は依然として高い
- アジア居住者1位(56%)
- 欧米豪居住者2位(24%)



2020年9月 赤羽国交相は、以下の目標について表明

- ・2030年に訪日外国人6000万人
- ・真の観光先進国

出典:観光経済新聞 2020年9月28日



アフターコロナでは、インバウンド需要は増加する

出典:DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査(2020年度 新型コロナ影響度 特別調査)

1. 背景と目的
- 2. 研究の進め方**
3. 東京圏への訪問者数の推計
4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートの分析
  - 4-1 モバイル空間統計の概要
  - 4-2 分析結果
5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計
6. まとめと課題

調査対象期間: 2017年 (推移は2015~2019年)

### 東京圏への訪問者数の推計

- ・訪日外国人は国籍別でどのように増えたか
- ・東京圏への訪問者数はどれくらいいるのか



調査対象期間: 2017年9月~2018年8月

### 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析

- ・東京圏における主要な訪問地、宿泊地(民泊含む)はどこか
- ・東京圏における主要な観光ルートはどのようなルートか
- ・国籍別にどのような違いがあるのか
- ・どの地区がどこの国籍の人に人気なのか



調査対象期間: 2017年9月~2018年8月

### 訪日外国人の鉄道利用者数の推計

- ・東京圏でどの程度の訪日外国人が鉄道を利用しているのか
- ・東京圏で主に利用されていると推定される路線はどの路線か

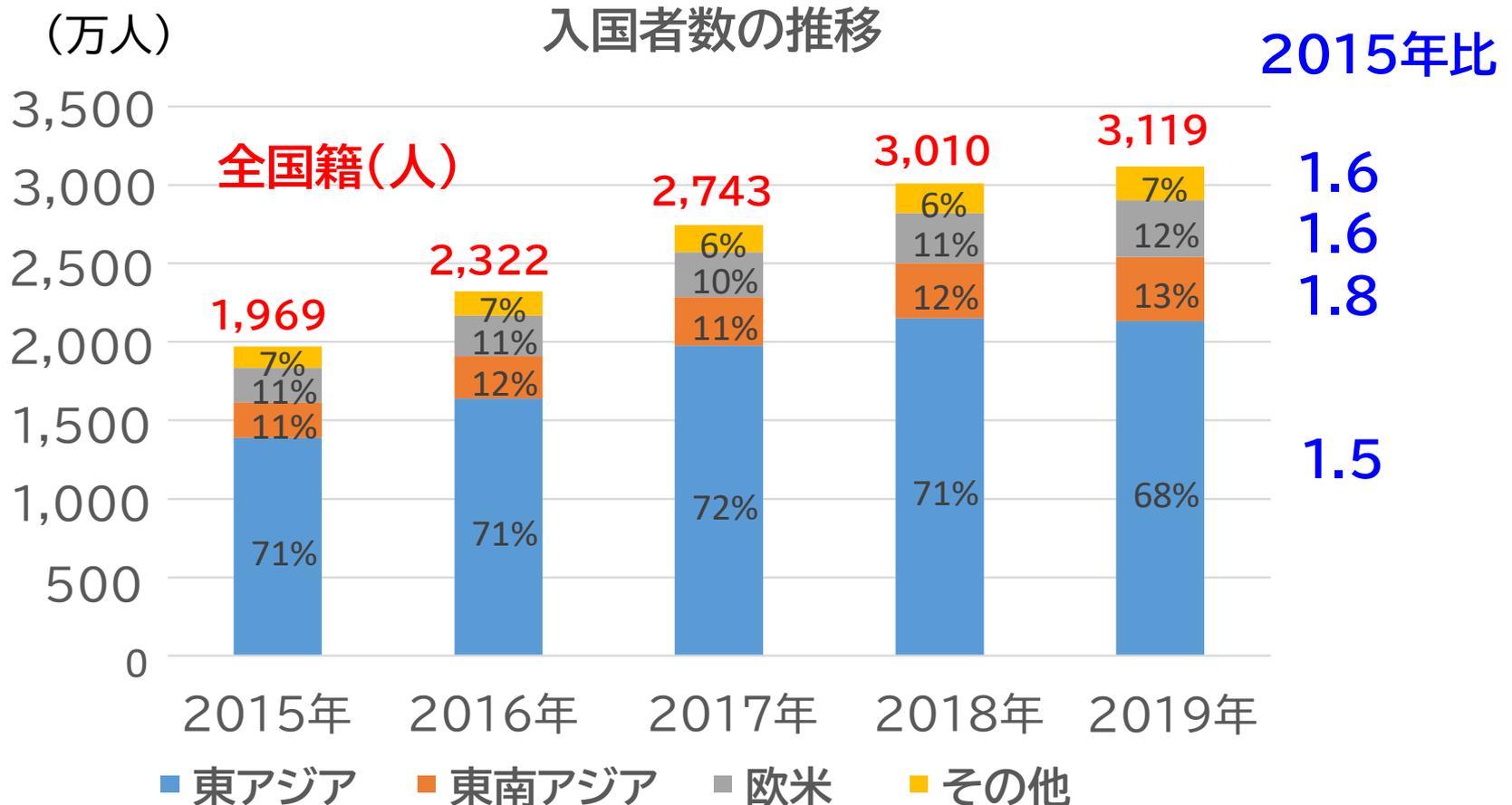
**モバイル空間統計データを用いて、  
東京圏における訪日外国人の動向を分析・推計**

- 訪日外国人の動向を把握するために、モバイル空間統計データを(株)ドコモ・インサイトマーケティングから入手した
- 官公庁主体の主な調査・統計については、一般では入手できない個票データを、政策研究大学院大学と共同で取り寄せ分析した

統計・調査名称		判明する事項	鉄道利用者数推計における活用方法と課題
モバイル空間統計		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 設定ゾーンに1時間以上滞在した人数</li> <li>➤ 設定ゾーン間の移動人数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 1時間滞在しなければ集計されないため、短時間のみの訪問箇所は把握が困難</li> </ul>
官公庁による主な調査・統計	出入国管理統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 出入国者数の推移(国籍別、在留資格別)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 港別国籍別の入国者数の把握が可能</li> <li>➤ 地点別の訪問者数や滞在日数の把握は不可</li> </ul>
	国際航空旅客動態調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 旅行目的、空港のアクセス手段、旅行先の訪問地、旅行日数、個人属性 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 都県間の利用交通機関は把握可能</li> <li>➤ 東京都内々および東京発着以外の県間移動は、サンプル数が少ない</li> </ul>
	訪日外国人消費動向調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 旅行者の属性(国籍、性別、年齢等)、訪日目的、滞在中の訪問地、消費額 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 利用交通機関の把握は難しい</li> <li>➤ 訪問地点の把握は可能だが、信頼性が低く、サンプル数の少ない地点もある</li> </ul>
	宿泊旅行統計調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 外国人延べ・実宿泊者数</li> <li>➤ 外国人延べ宿泊者数の国籍別内訳 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ホテル・旅館の回答率にバラツキはあるが、拡大で全数を推計</li> <li>➤ 宿泊者数は、個票データより町丁目単位までの把握が可能</li> </ul>

1. 背景と目的
2. 研究の進め方
- 3. 東京圏への訪問者数の推計**
4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートの分析
  - 4-1 モバイル空間統計の概要
  - 4-2 分析結果
5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計
6. まとめと課題

- 入国者数は全地域とも2019/2015比で1.5倍以上で増加傾向にあり、特に東南アジアの伸び率が高い
- 2019年は、全国籍の入国者数の約70%を東アジアが占めている



訪日外国人の入国者数の推移(地域別) ※出入国管理統計データより作成

### 3. 東京圏への訪問者数の推計

## 訪日外国人の入国者数の推移(2015→2019 国籍別)

- 増加率が特に高いのは、東アジアでは中国(1.9倍)、東南アジアではベトナム(2.6倍)、欧米ではロシア(2.1倍)である
- いずれの国も増加率1.3倍以上で、増加傾向にある
- 入国者数の上位3か国は中国、韓国、台湾であり、東南アジアではタイ、欧米では米国の入国者数が群を抜いて多い

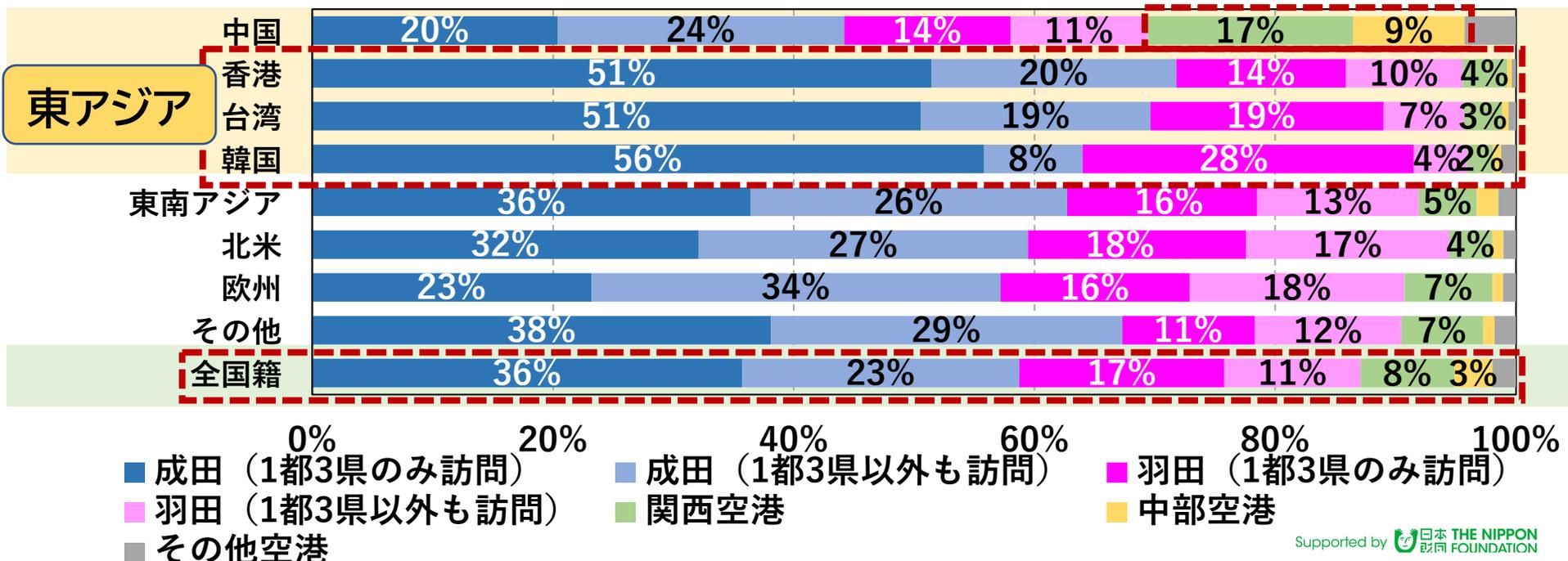
入国者数	2015年	2019年	増加率	入国者数	2015年	2019年	増加率
<b>東アジア</b>				<b>欧米</b>			
		(万人)				(万人)	
中国	458	860	1.9	米国	106	175	1.6
香港	147	218	1.5	カナダ	23	38	1.6
台湾	358	467	1.3	ロシア	6	13	2.1
韓国	425	588	1.4	英国	30	51	1.7
<b>東南アジア</b>				<b>その他</b>			
タイ	82	135	1.6	インド	11	18	1.7
シンガポール	31	49	1.6	オーストラリア	38	62	1.6
マレーシア	31	50	1.6	その他	86	137	1.6
インドネシア	21	42	2.0	<b>計</b>	<b>1,969</b>	<b>3,119</b>	<b>1.6</b>
フィリピン	39	77	2.0				
ベトナム	20	52	2.6				

2015年・2019年の入国者数、増加率(国籍別)※出入国管理統計データより作成

### 3. 東京圏への訪問者数の推計

## 東京圏を訪問する人の入国空港の割合の算出

- いずれの国も、成田、羽田、関西、中部空港の順であり、**全国籍平均での成田・羽田(東京圏)空港の利用は87%**であることが算出された
- 多くの国では**東京圏を訪問する人も関西・中部空港からも入国しており、特に中国ではその割合が高い**ことがわかった
  - 東京圏以外の観光地も周遊している可能性
- 成田・羽田空港利用者のうち東京圏のみを訪問する人の割合は、**中国を除く東アジア諸国が高い傾向にあり、韓国は84%**と特に高いことがわかった
  - 訪問先を絞り短期滞在で訪日している可能性



### 3. 東京圏への訪問者数の推計

## 東京圏への訪問者数の推計

東京圏全体の訪問を対象としている調査がないため、下記のフローにより東京圏への訪問者数を推計する

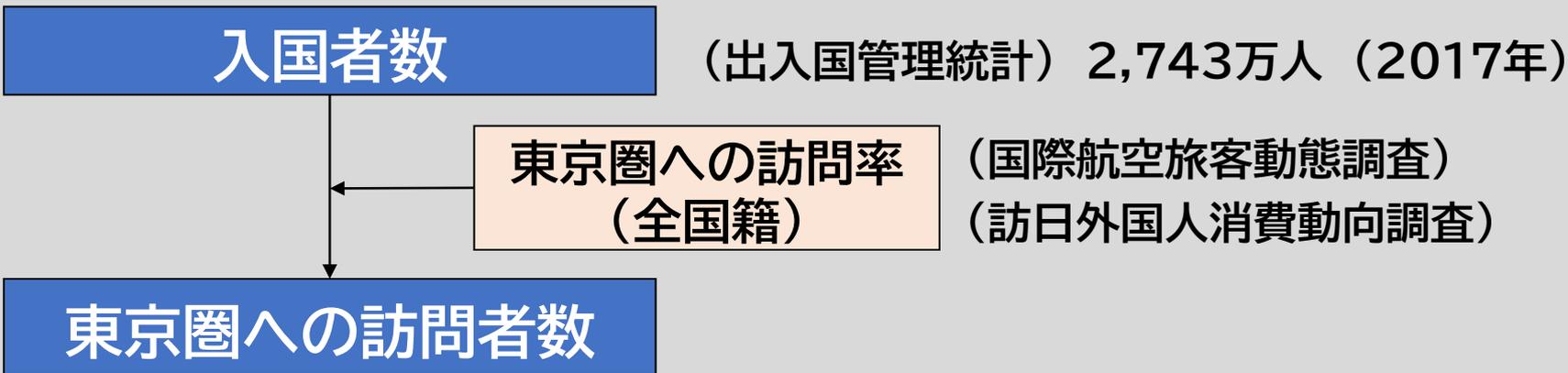


表 東京圏への訪問者数と訪問率

	中国	台湾	香港	韓国	東南	北米	欧州	その他	全国籍
訪日者数	○	...							●
東京圏への訪問者数	△	...							▲
東京圏への訪問率	◇	...							◆

訪日中に1度でも1都3県のいずれかを訪れた人を1人と集計

下記の式より、東京圏への訪問率を算出

$$(\text{東京圏への訪問率}) = (\text{東京圏への訪問者数}) \div (\text{訪日者数})$$

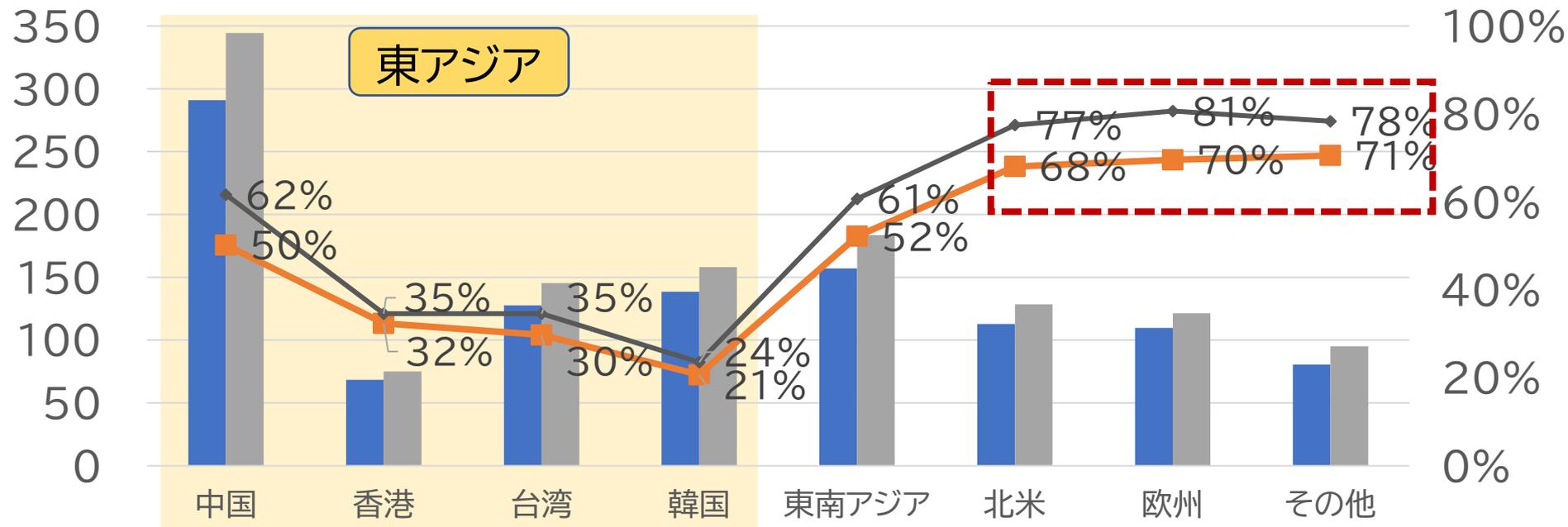
### 3. 東京圏への訪問者数の推計 東京圏への訪問率の算出

国際航空旅客動態調査および訪日外国人消費動向調査を用いて、全国籍の東京圏の訪問率を算出した結果、それぞれ41.3%、48.0%となった

- 国籍別では、東アジアは中国を除いて訪問率が比較的低い一方、北米や欧州、その他地域の訪問率は約7~8割と高いことがわかった
- リピーターが多い国が東京圏への訪問率が低い可能性がある

(万トリップ/年)

東京圏の訪問者数と訪問率



■ 訪問者数(国際航空) ■ 訪問者数(訪日消費) ■ 訪問率(国際航空) ◆ 訪問率(訪日消費)

東京圏への訪問者数と東京圏への訪問率(国籍別-全目的)

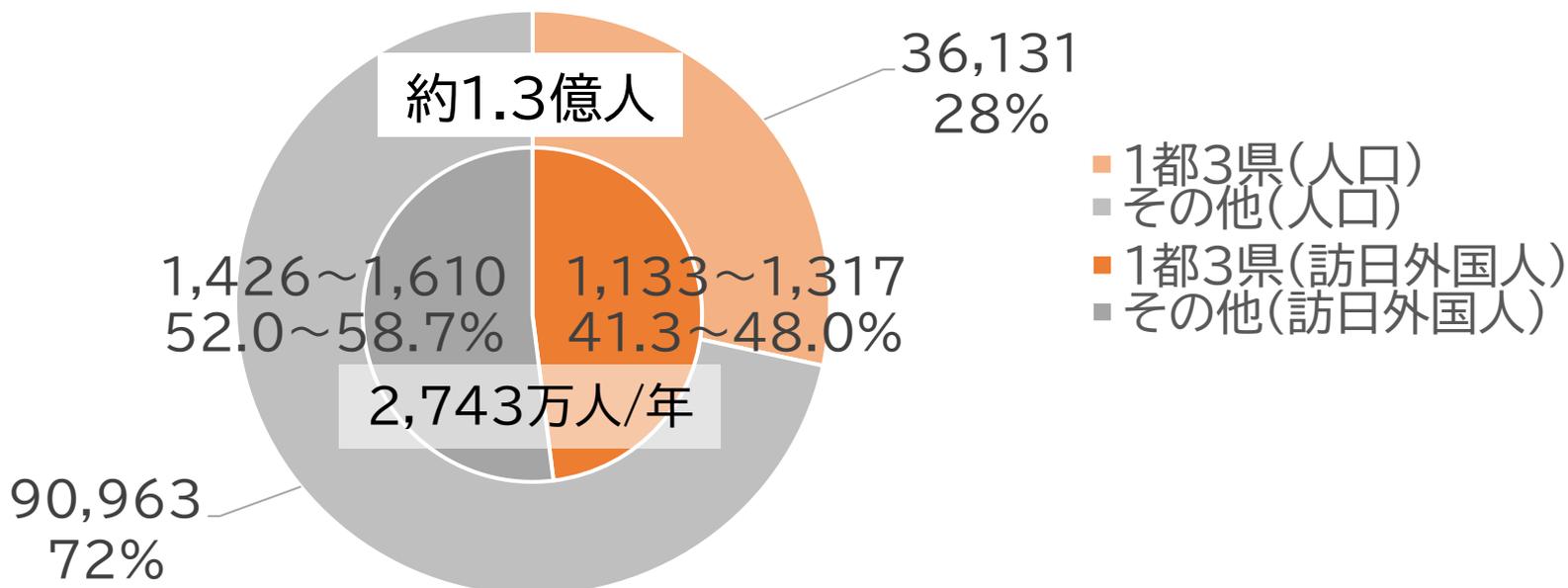
※国際航空旅客動態調査および訪日外国人消費動向調査データより作成

### 3. 東京圏への訪問者数の推計

## 東京圏への訪問者数の推計結果

表 東京圏への訪問者数(推計)

	東京圏への訪問者数(万人)	使用調査
MIN	1,133	国際航空旅客動態調査
MAX	1,317	訪日外国人消費動向調査



総務省統計局 都道府県別人口データより作成

- 東京圏への訪問者数(2017年)は、推計で年間約1,133~1,317万人
- 日本の総人口の約3割を占める東京圏に、訪日外国人の約4~5割が訪問している

1. 背景と目的
2. 研究の進め方
3. 東京圏への訪問者数の推計
- 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光  
ルートの分析**
  - 4-1 モバイル空間統計の概要
  - 4-2 分析結果
5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計
6. まとめと課題

## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルート分析 モバイル空間統計の概要

モバイル空間統計データの特徴および本調査でのデータ概要は下記の通り

### モバイル空間統計データの特徴

- **訪日外国人旅行者**が携帯電話を日本で利用し、**NTTドコモのネットワークに接続した端末**が集計対象
- **各基地局のゾーン**において**1時間ごと**に所在する携帯電話を集計
- **入国から出国まで途切れずに捕捉できたサンプル**のみ有効
- 携帯電話を契約している国の国番号をもとに**国籍別に集計**が可能
- 出入国管理統計の入国者数と一致するよう**拡大推計処理**
- **サンプル数が多く**、データの信頼性が高い(年間1,200万台/年) ※2019年の年間実績

### 本研究におけるデータ概要

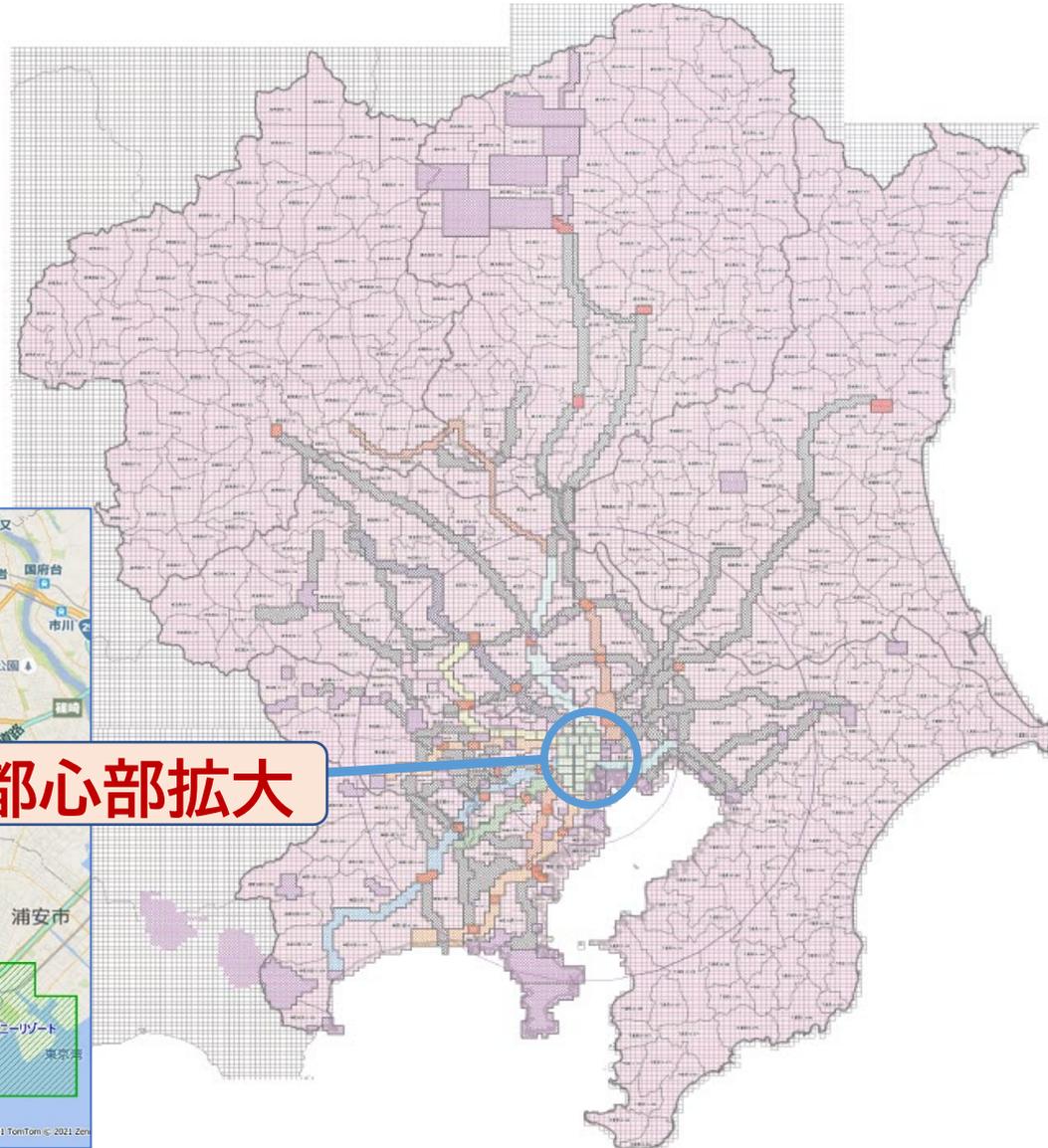
項目	内容
対象範囲	<b>1都6県</b> の鉄道沿線および主要観光地について <b>687ゾーン</b> に分割
集計期間	<b>2017年9月～2018年8月</b>
データ取得時間	➤全日【00:00～23:59】
	➤夜間【02:00～04:59】 ⇒ <b>宿泊者数と仮定</b>

# 4-1 モバイル空間統計の概要

## ゾーン設定(都心部・郊外部)

**都心部** 山手線内側+臨海部等 ※下図参照 **郊外部** 東京圏(1都6県)の都心部以外

- **観光・商業地域を中心に**、ターミナル駅や駅間沿線にゾーニングを実施
- ゾーン単位は最小1kmメッシュから設定可能
- 1ゾーンを原則4~6メッシュで設定



## 【データ集計例】

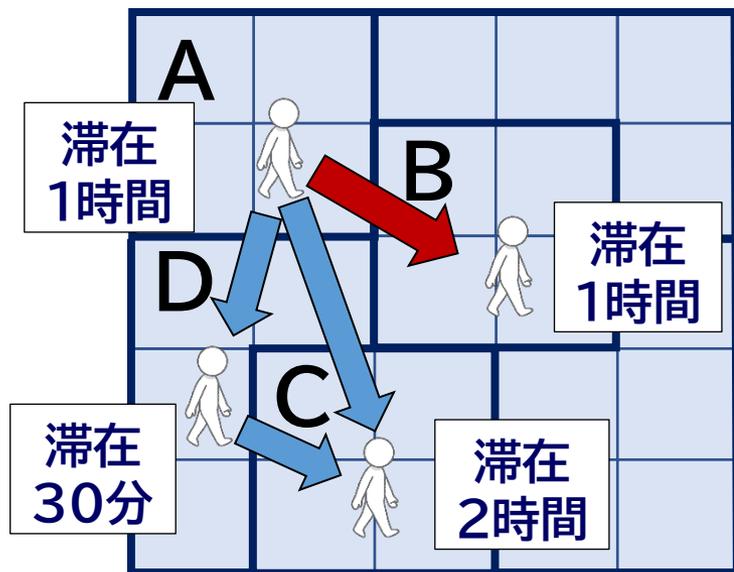


表 OD表

		目的地				合計	発生交通量	生成交通量
		A	B	C	D			
出発地	A	0	1	1	0	発生交通量	生成交通量	
	B	0	0	0	0			
	C	0	0	0	0			
	D	0	0	0	0			
	合計	集中交通量						

A→Bに計上される

ゾーン内々は計上されない

実際はA→D→Cだが、A→Cに計上  
※Dが1時間未満で計上されない

## 【データ特性】

- 各ゾーンに1時間以上滞在し、ゾーン間を移動するものが集計される

## (注意点)

- 同一エリア間を1日に複数回移動した場合は、1回しか集計されない  
例) 新宿⇒銀座⇒新宿⇒銀座 の場合、銀座は1回のみ集計
- あるエリアに訪問する直前のエリアが異なる場合は、都度集計される  
例) 新宿⇒渋谷⇒銀座⇒渋谷 の場合、渋谷は2回集計

## 訪問地分析

主要訪問地(都心部・郊外部)を国籍別に分析する



現地調査にて

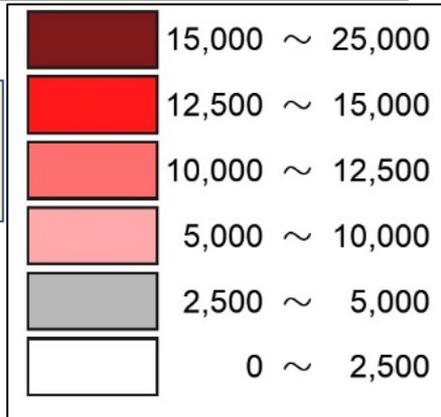


トリップアドバイザーより

# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 訪問者数(都心部-全国籍)

1日あたり訪問者数(国籍総数) **17.4万トリップ**

※全日⇒全日 集中量



・新宿御苑  
・サムライミュージアム  
・東京都庁

新宿→渋谷  
山手線内回り3駅

明治神宮

山手線沿線

・浅草寺  
・東京スカイツリー

銀座(有楽町)→上野  
山手線内回り5駅

銀座歓楽街

観光スポットは2021.6現在のトリップアドバイザー情報より抜粋

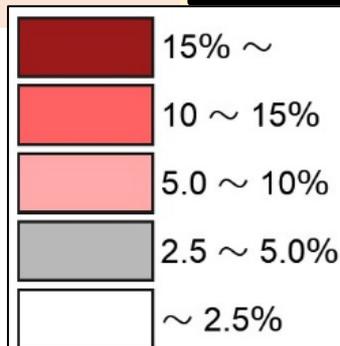
- ・ 都心部の訪問者数の約26%が新宿・銀座地区への訪問である
- ・ 新宿・銀座からアクセスしやすい山手線沿線および内側地区の訪問者数が多い
- ・ 山手線外側では、浅草・お台場地区などの観光地が人気である

# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 訪問者数(都心部一国籍別)

構成比

中国 3.4万トリップ

北アメリカ 2.1万トリップ



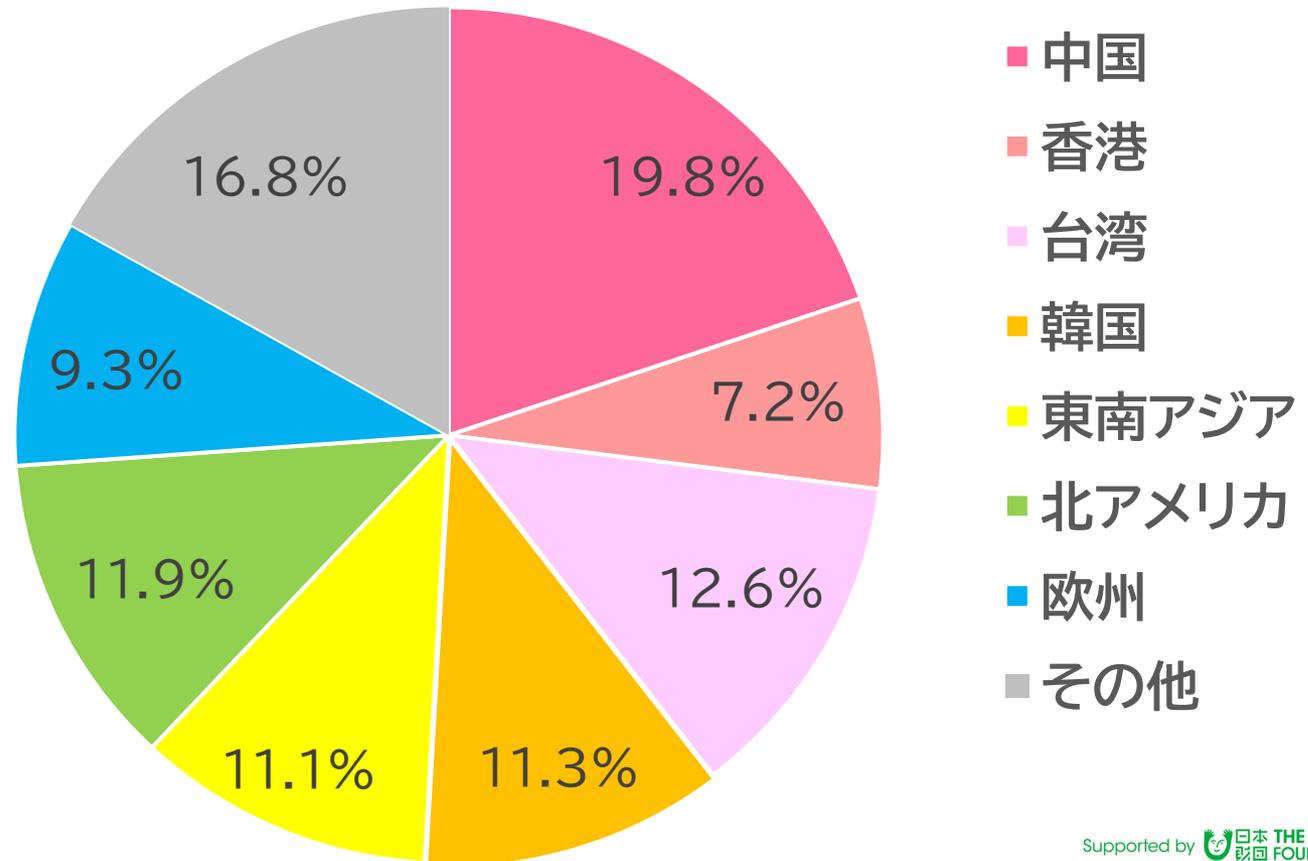
- **訪問地が集中している**  
→訪問地を絞った短期滞在の可能性
- **特に銀座地区に集中**  
→買い物目的と推察される
- 一方、渋谷地区の訪問率は低い

爆買いする中国人 DIAMOND Onlineより

## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 訪問者数(都心部－国籍別割合)

- 中国が最も多く、全体の約2割を占めることがわかった
- 香港(7.2%)、欧州(9.3%)がやや少ないが、その他の地域は概ね11～12%で同程度の割合である

### 都心部の訪問者数の国籍別割合

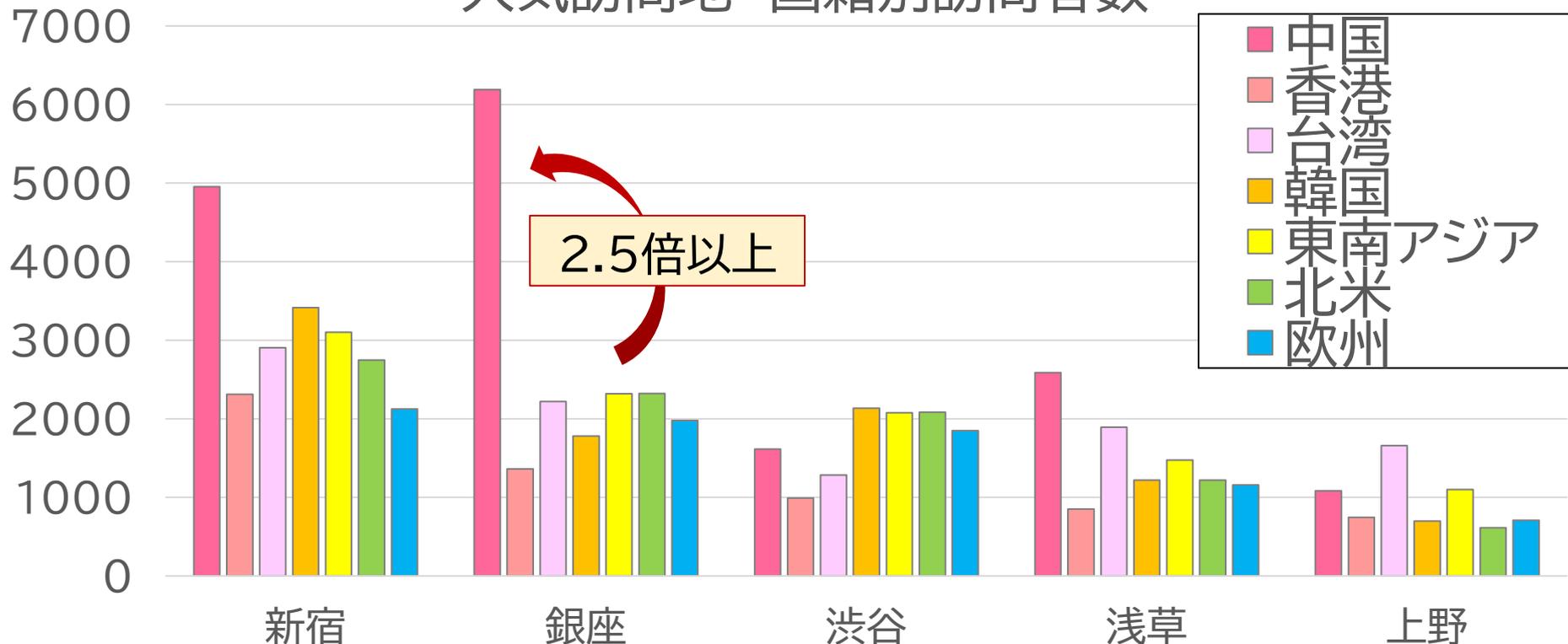


# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 訪問者数(都心部ー人気訪問地国籍別ランキング)

- いずれの国・地域においても、新宿地区は他の地区と比較し最も訪問者が多い(中国を除く)
- 銀座地区は中国が突出して多い
- 渋谷地区は中国より、韓国、東南アジア、欧米諸国の方が多い
- 浅草、上野地区は台湾や東南アジアが多い

(トリップ)

人気訪問地 国籍別訪問者数

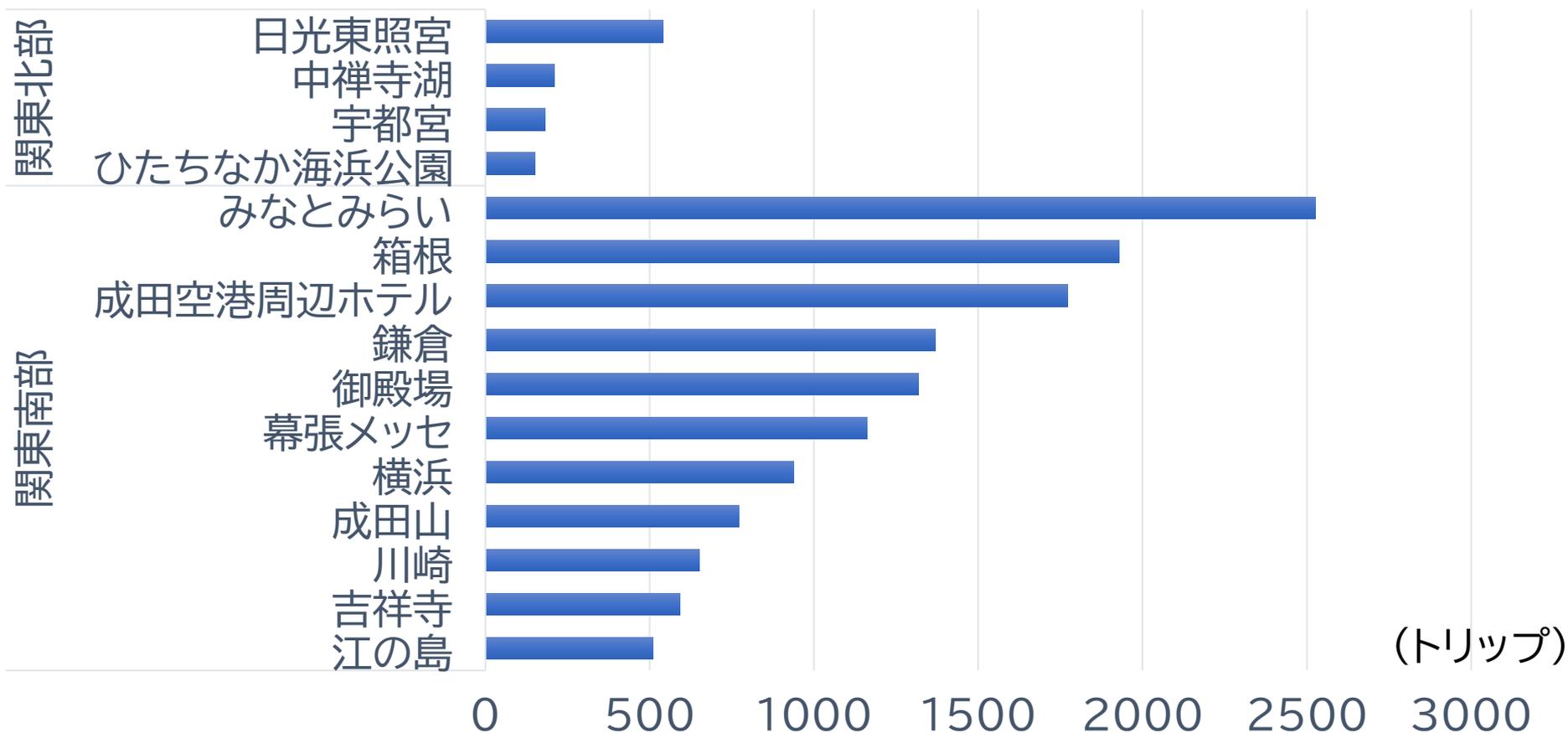


# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 訪問者数(郊外部-全国籍)

1日あたり訪問者数(国籍総数) ※都心部・空港部除く **4.8万トリップ**

- みなとみらいや箱根など**関東南部が主な訪問地**である
- 関東北部では、**日光東照宮周辺が比較的訪問者が多い**

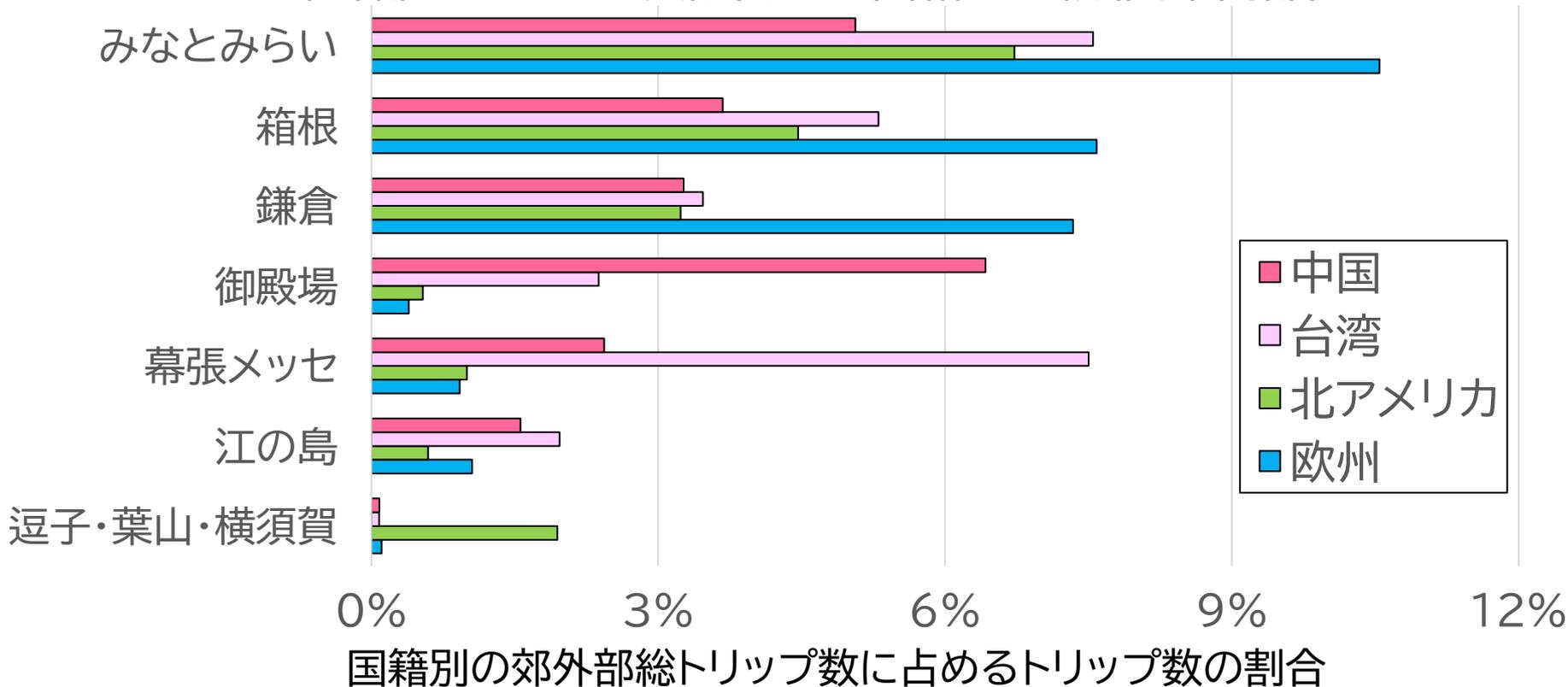
## 郊外部における主要訪問地の訪問者数



# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 訪問者数(郊外部一国籍別) 関東南部

構成比

郊外部における主要訪問地の国籍別比較(関東南部)

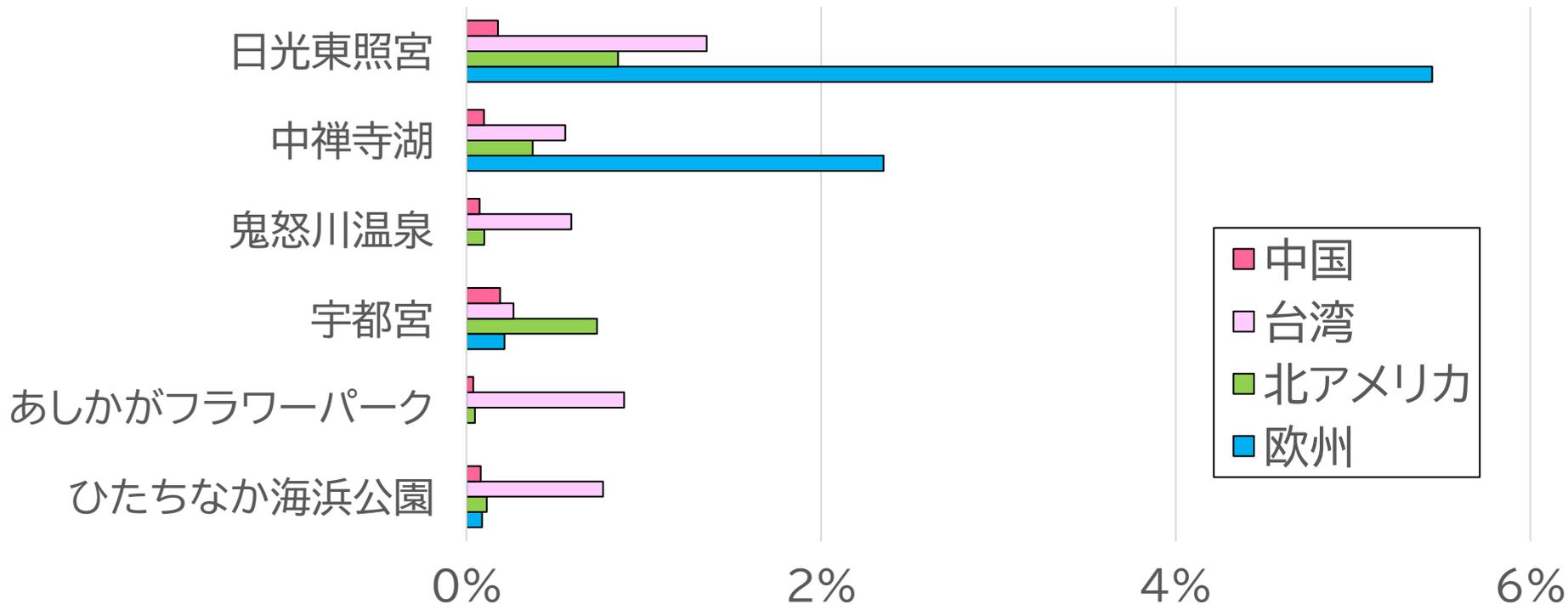


中国	<u>御殿場への訪問割合が多い</u> → 買い物目的と推察される
台湾	みなとみらいと同程度の割合で <u>幕張メッセに多く訪問している</u>
北アメリカ	<u>逗子・葉山・横須賀へ一定数が訪問している</u>
欧州	<u>みなとみらい、箱根、鎌倉に集中している</u>

# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 訪問者数(郊外部一国籍別) 関東北部

構成比

郊外部における主要訪問地の国籍別比較(関東北部)



中国	<u>(関東南部と比較して)どの地区にもほとんど訪問していない</u>
台湾	<u>あしかがフラワーパークやひたちなか海浜公園にも訪問している</u>
北アメリカ	<u>日光および周辺地区への訪問割合が高い</u>
欧州	<u>日光地区への訪問割合が高い</u>

## 宿泊地分析

主要宿泊地(都心部・郊外部)について  
主要訪問地と比較分析する

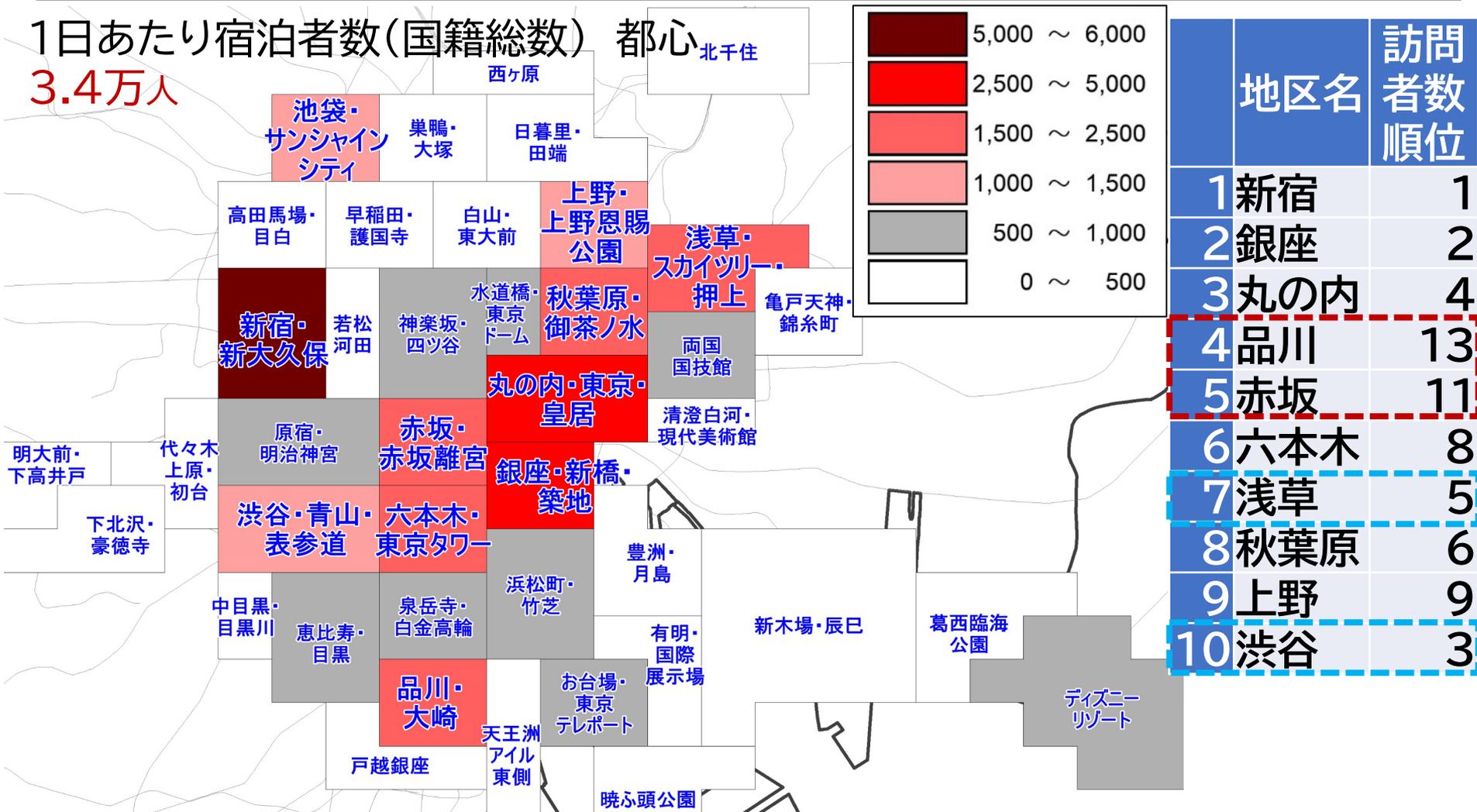


トリップアドバイザーより

# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルート分析 宿泊者数(都心部-全国籍)

1日あたり宿泊者数(国籍総数) 都心

3.4万人

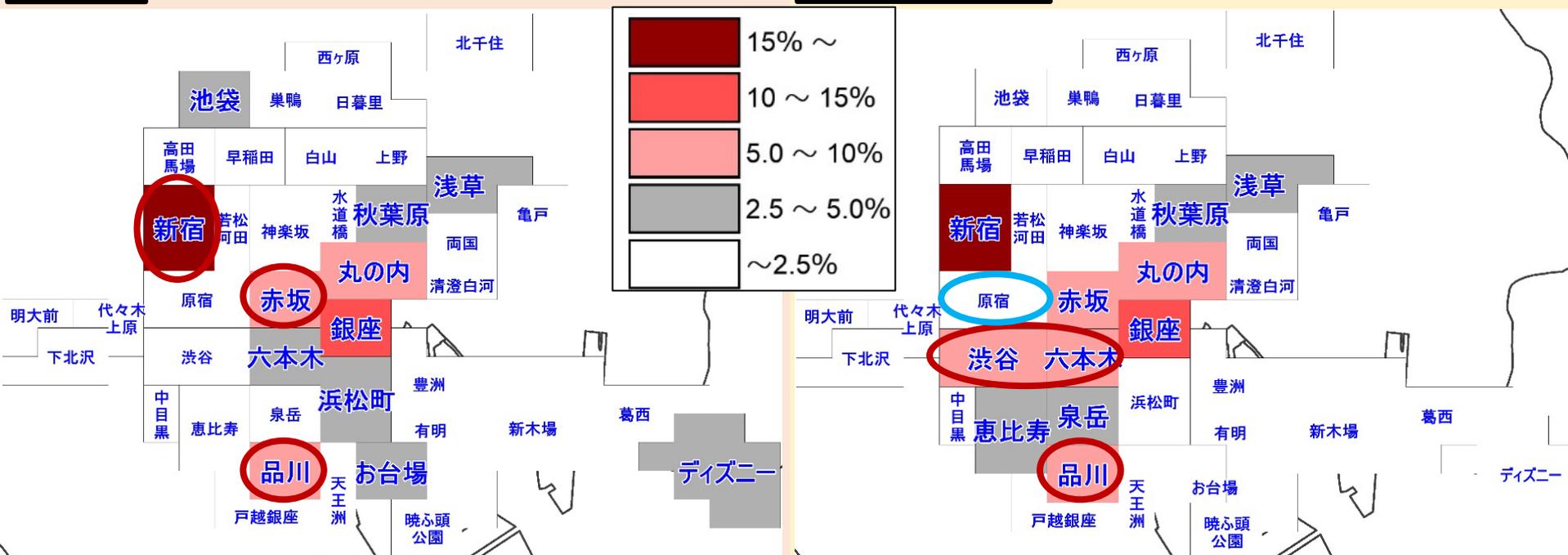


- 訪問者数とほぼ同じ割合の約28%が新宿・銀座地区に宿泊している
- 訪問者数順位と宿泊者数順位が逆転している渋谷・浅草地区は宿泊施設が少なく、品川・赤坂地区は宿泊収容人数の多いホテルがあるためと推察される

## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 宿泊者数(都心部一国籍別)

**中国** 7.1千人

**北アメリカ** 4.2千人



- 訪問者数は銀座地区が1位だが、宿泊者数は新宿地区が1位
- 赤坂地区の訪問率は低いが、宿泊率は高い

- 原宿地区は、訪問率は高いが宿泊率は低い
- 渋谷、六本木地区の宿泊率が高い  
→深夜帯の飲み屋やバーなどの利用者が多い可能性

2か国の共通点

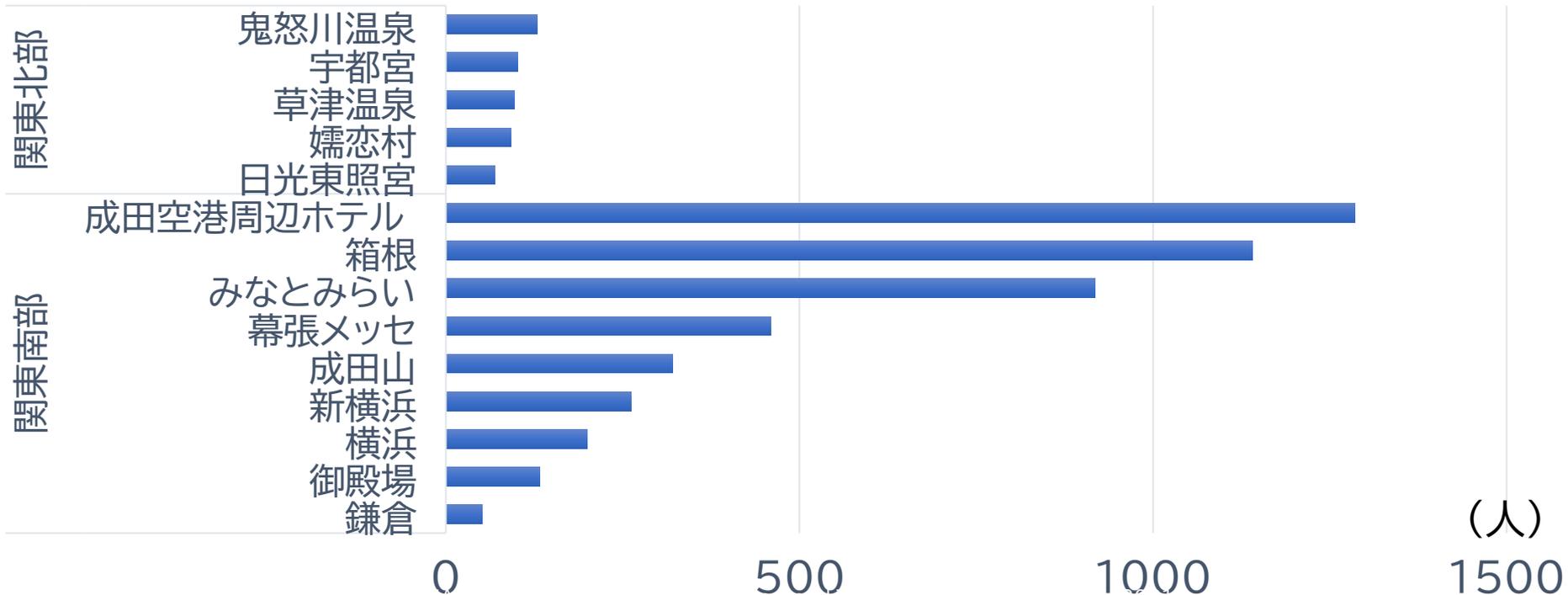
品川地区の訪問率は低いが、宿泊率は高い

## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルート分析 宿泊者数(郊外部-全国籍)

1日あたり宿泊者数(国籍総数) 郊外 1.7万人 ※成田・羽田空港を除く

- 成田空港周辺が最も多く、規模は小さいが新横浜の宿泊者も比較的多い  
 ⇒ 空港や新幹線駅からアクセスしやすい場所の宿泊者が多い
- 訪問者数1位のみなとみらいは3位である  
 → 都心からのアクセスも良いことから、日帰り訪問者が多いと推察される
- 関東北部では、鬼怒川温泉や草津温泉周辺にも宿泊者が一定数いる

### 郊外部における主要宿泊地の宿泊者数



# 観光ルート分析

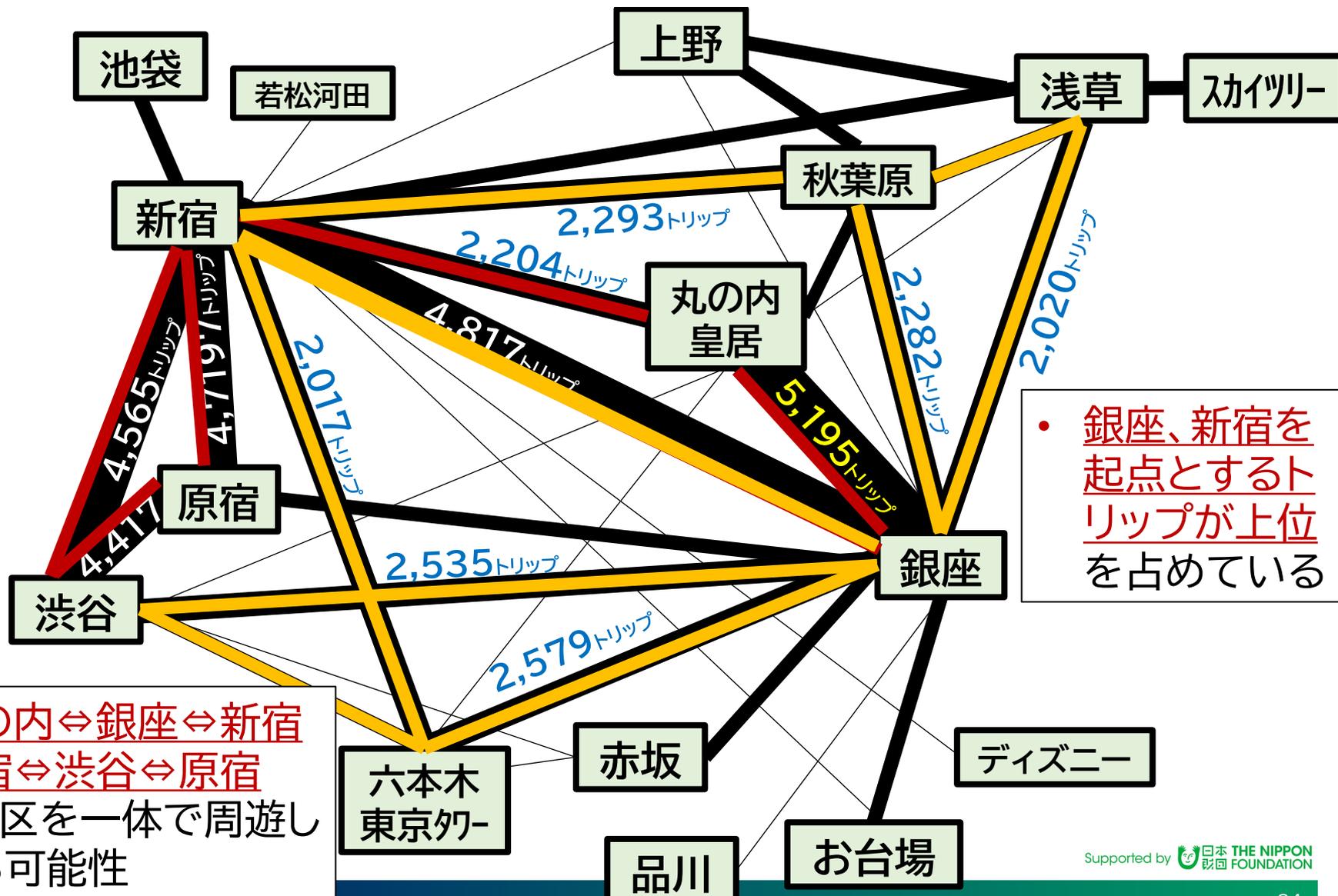
主要観光ルート(都心部・郊外部)について  
国籍別に分析する



トリップアドバイザーより

# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 観光ルート(都心部-全国籍)

1日あたりのOD交通量(国籍総数) 都心 **14.5万トリップ**



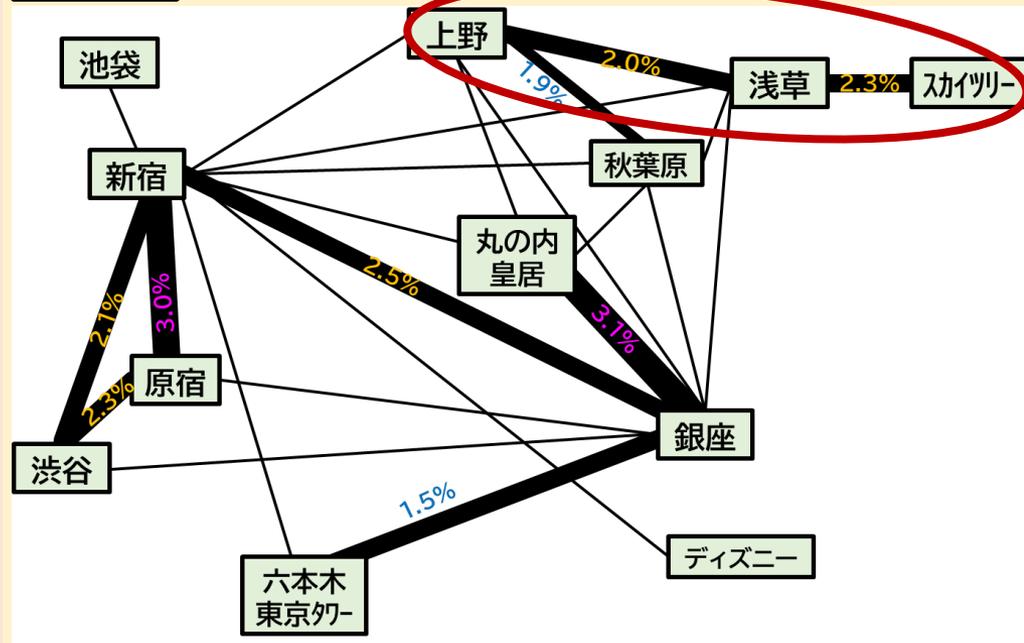
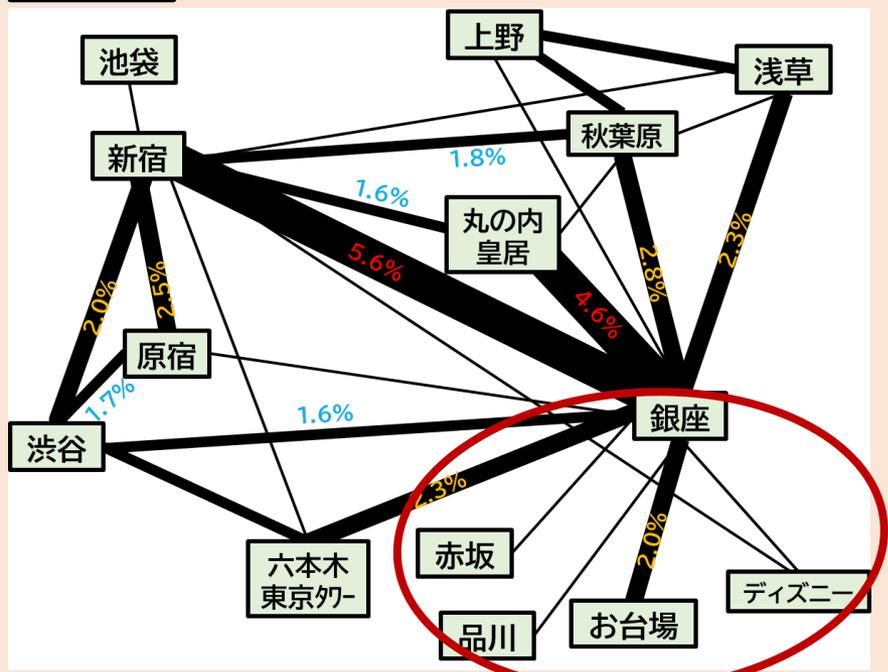
・ 銀座、新宿を  
起点とするト  
リップが上位  
を占めている

・ 丸の内⇄銀座⇄新宿  
・ 新宿⇄渋谷⇄原宿  
→ 3地区を一体で周遊している可能性

## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルート(都心部-国籍別)

**中国** 2.8万トリップ

**台湾** 1.9万トリップ



- ・ 銀座を起点とした移動が多く、 他方面に線が延びている
- ・ 特に銀座⇔新宿、銀座⇔丸の内が多い

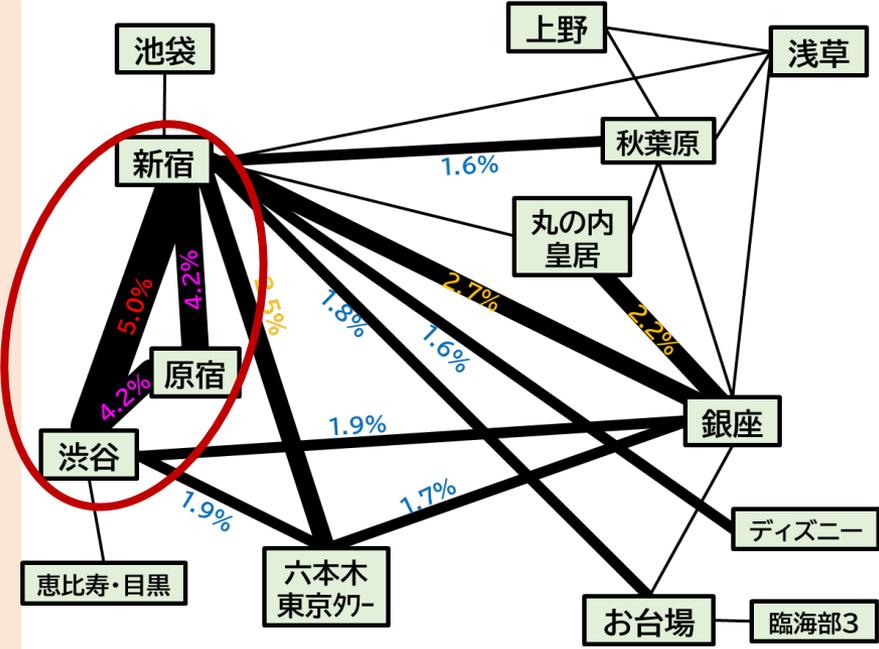
- ・ 上野や浅草を起点とした移動が多い
  - ・ 上野⇔浅草⇔東京スカイツリー間の移動が同程度で多い
- ⇒ 一体で周遊している可能性

- ① 銀座⇔新宿 5.6%
- ② 丸の内・皇居⇔銀座 4.6%
- ③ 銀座⇔秋葉原 2.8%

- ① 丸の内・皇居⇔銀座 3.1%
- ② 原宿⇔新宿 3.0%
- ③ 銀座⇔新宿 2.5%

4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルート(都心部-国籍別)

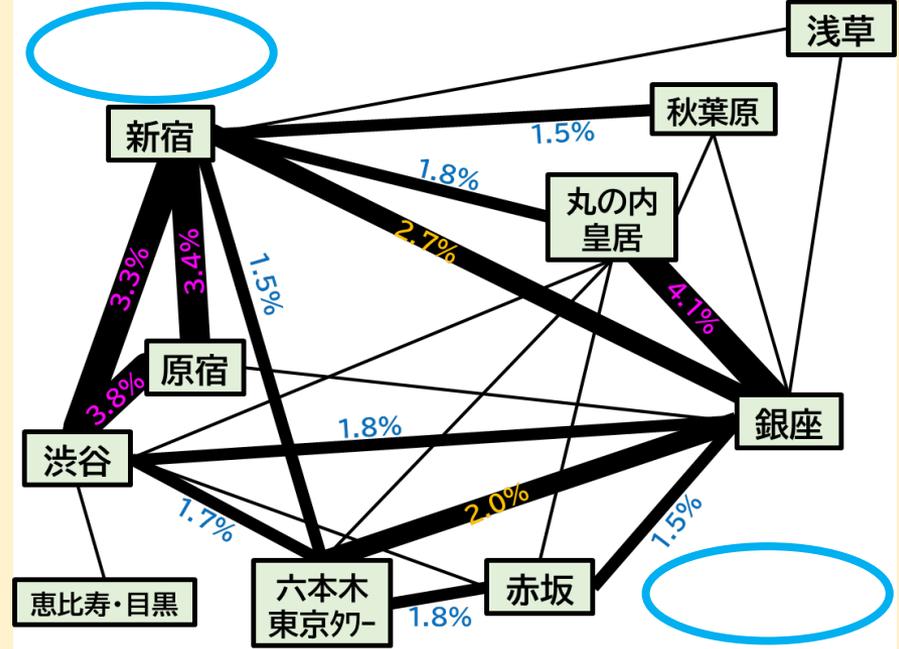
韓国 1.7万トリップ



- 新宿を起点とした移動が多い
  - 特に新宿⇔渋谷⇔原宿間の移動が多い
- ⇒ 一体で周遊している可能性

①	渋谷⇔新宿	5.0%
②	原宿⇔渋谷	4.2%
③	原宿⇔新宿	4.2%

北アメリカ 1.8万トリップ



- 丸の内⇔銀座が最も多く、山手線内側での移動に集中している
- 六本木、赤坂発着の移動が多い
- 池袋や山手線外の移動は少ない

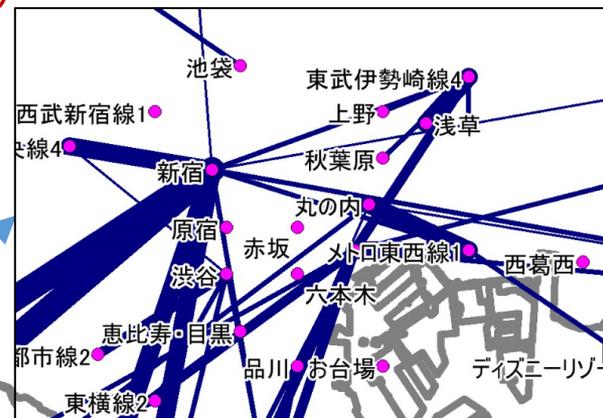
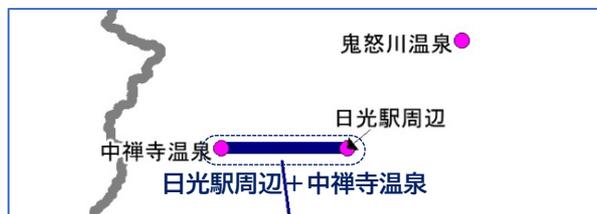
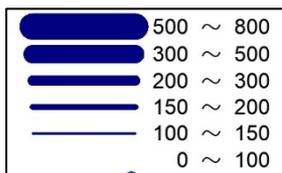
①	丸の内・皇居⇔銀座	4.1%
②	原宿⇔渋谷	3.8%
③	原宿⇔新宿	3.4%

# 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートへの分析 観光ルート(郊外部-全国籍)

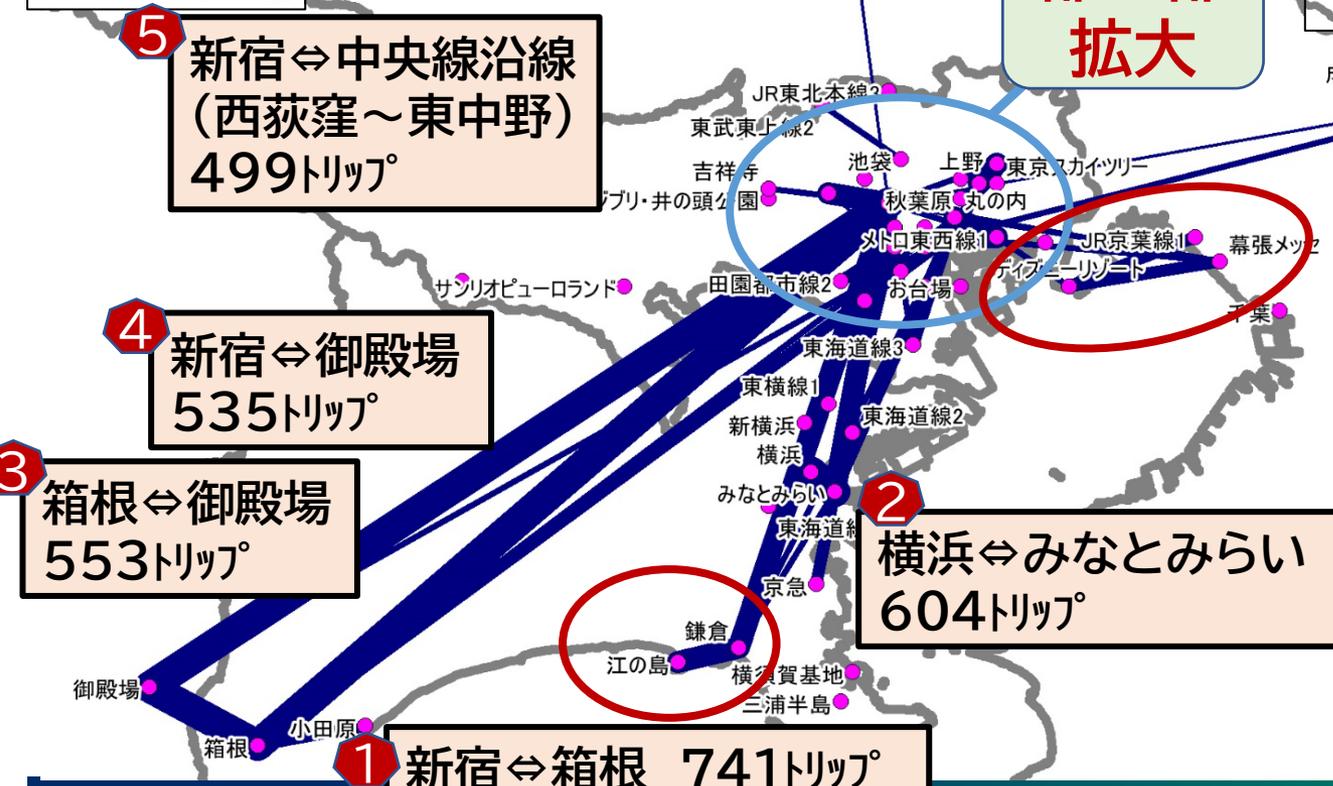
1日あたりのOD交通量(国籍総数) 郊外 **4.9万トリップ**

※観光地以外のエリア、  
空港、都心内々のODを除く

(トリップ/日)



**都心部  
拡大**



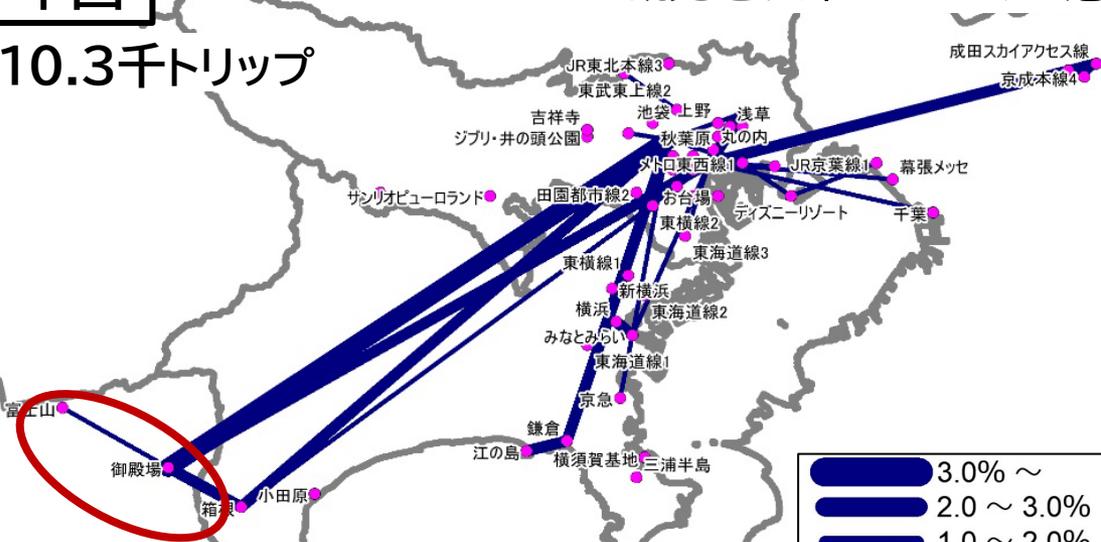
- 箱根、御殿場方面への交通量が多い
- 千葉県内の交通量が一定数ある
- 都心部から直接江の島へ向かう交通量は少ない

## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルート(郊外部-国籍別)

### 中国

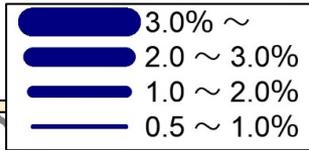
10.3千トリップ

※観光地以外のエリア、空港、都心内々のODを除く



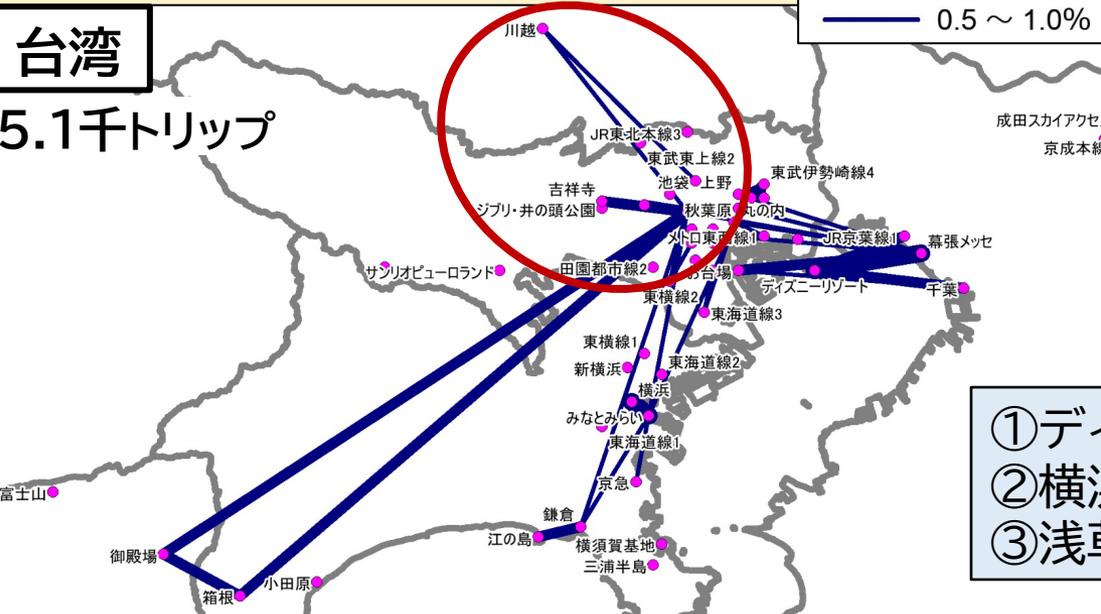
- 御殿場を起点とした移動が多い
- 御殿場から一定数が富士山へ足を延ばしている

- ①新宿⇔御殿場 2.3%
- ②銀座⇔門前仲町・南砂町 1.8%
- ③箱根⇔御殿場 1.8%



### 台湾

5.1千トリップ



- ディズニーリゾートや幕張メッセなど千葉方面の移動が多い
- 一定数が川越やジブリ・井の頭公園に訪問している

- ①ディズニー⇔幕張メッセ 2.8%
- ②横浜⇔みなとみらい 2.1%
- ③浅草⇔浅草北部・鐘ヶ淵・曳舟 1.7%

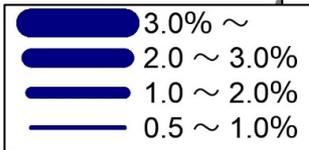
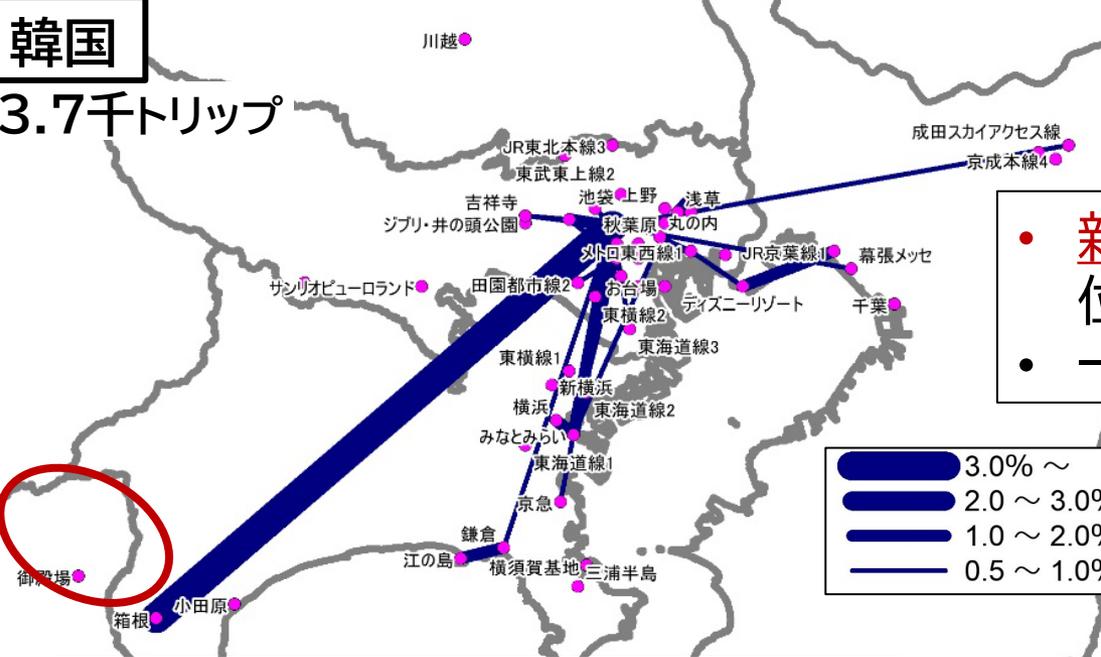
# 構成比

## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルート(郊外部-国籍別)

※観光地以外のエリア、空港、都心内々のODを除く

### 韓国

3.7千トリップ



- 新宿を起点とした移動が多く、特に新宿⇔箱根の移動が集中している
- 御殿場への移動はほとんどない

- ①新宿⇔箱根 3.4%
- ②新宿⇔西荻窪・東中野 1.9%
- ③新宿⇔みなとみらい 1.8%

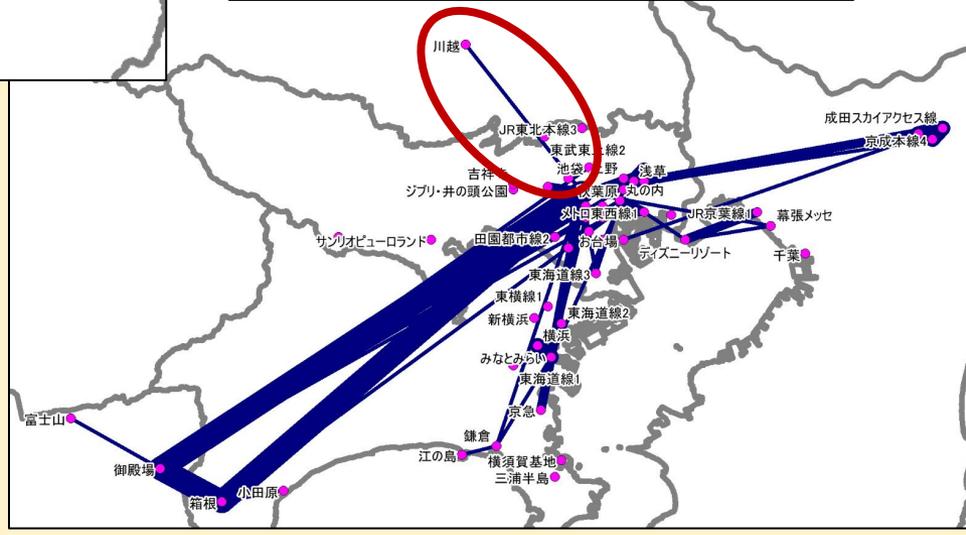
### 東南アジア

3.3千トリップ

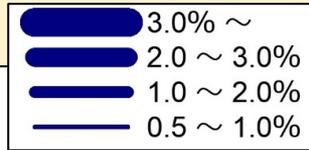


- 新宿、箱根、御殿場間の移動が上位3位を独占している
- 一定数が川越に足を延ばしている

- ①箱根⇔御殿場 4.5%
- ②新宿⇔御殿場 4.1%
- ③新宿⇔箱根 3.2%



# 構成比



## 4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルート(郊外部-国籍別)

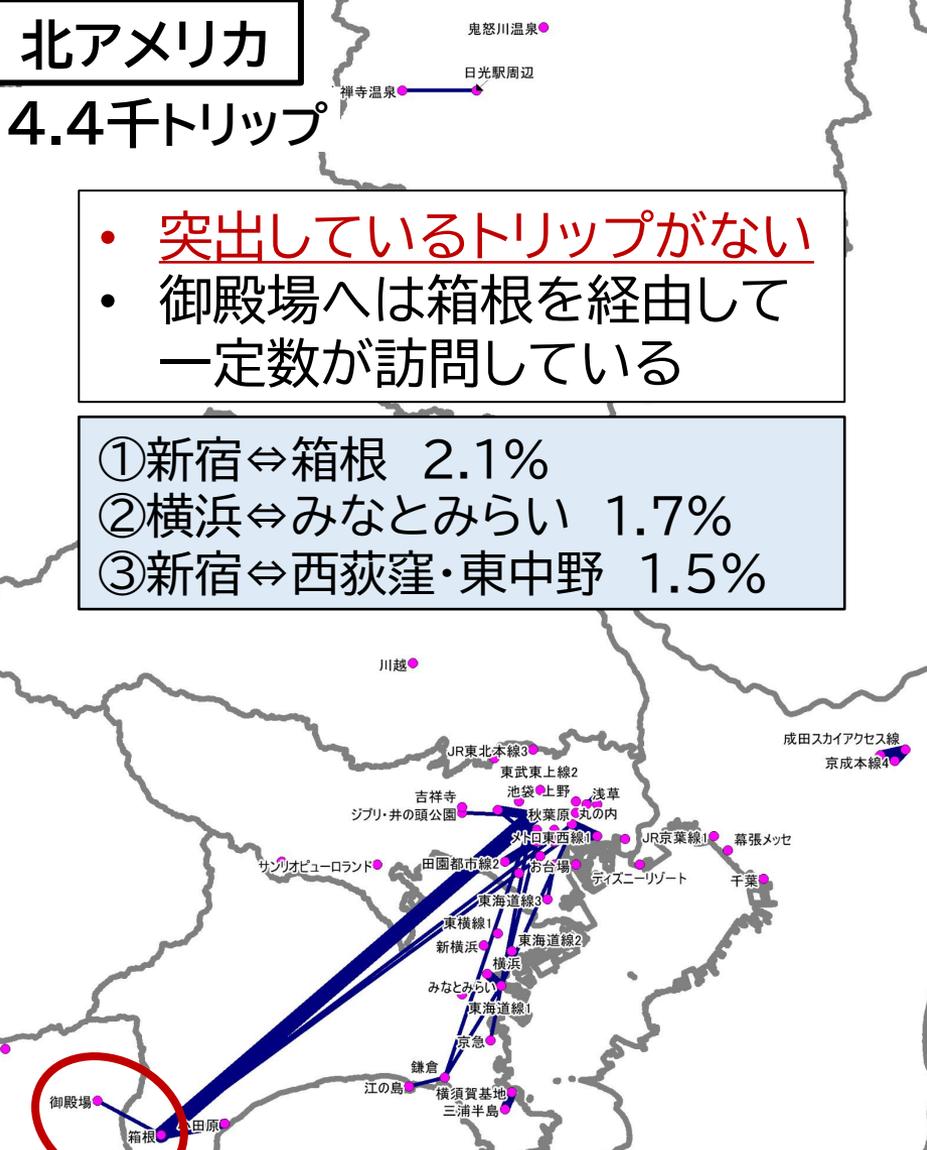
※観光地以外のエリア、空港、都心内々のODを除く

### 北アメリカ

4.4千トリップ

- 突出しているトリップがない
- 御殿場へは箱根を経由して一定数が訪問している

- ①新宿⇔箱根 2.1%
- ②横浜⇔みなとみらい 1.7%
- ③新宿⇔西荻窪・東中野 1.5%

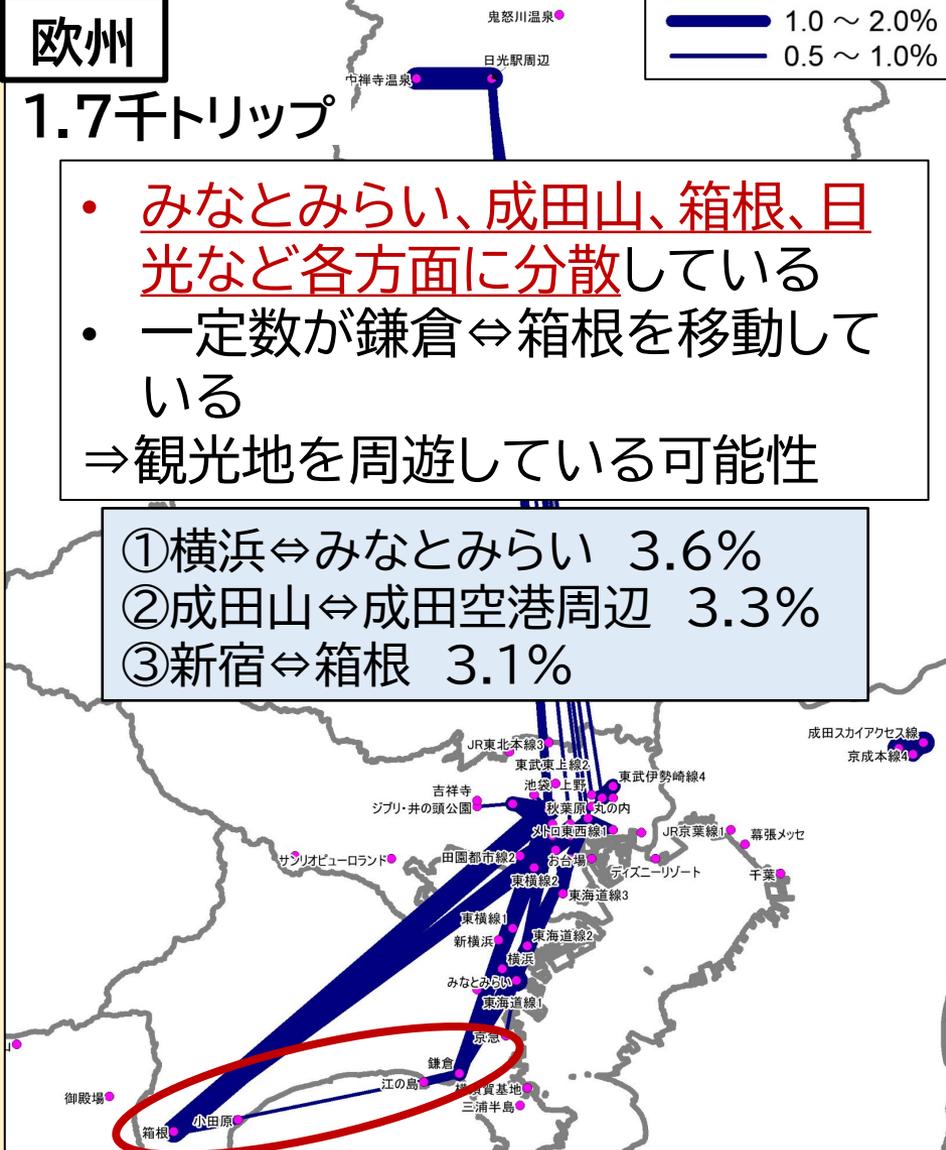


### 欧州

1.7千トリップ

- みなとみらい、成田山、箱根、日光など各方面に分散している
  - 一定数が鎌倉⇔箱根を移動している
- ⇒観光地を周遊している可能性

- ①横浜⇔みなとみらい 3.6%
- ②成田山⇔成田空港周辺 3.3%
- ③新宿⇔箱根 3.1%



1. 背景と目的
2. 研究の進め方
3. 東京圏への訪問者数の推計
4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートの分析
  - 4-1 モバイル空間統計の概要
  - 4-2 分析結果
- 5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計**
6. まとめと課題

## 5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計 鉄道利用者数(概数)を推計するにあたって

### 訪日外国人の鉄道利用者数を把握できるツール

- インバウンド向けICカードのSF利用データ
- 訪日外国人向け企画乗車券の販売実績

※普通乗車券(きっぷやICカード)を利用する人を把握することはできない



3章 官公庁による調査・統計を用いた東京圏への訪問者数の推計

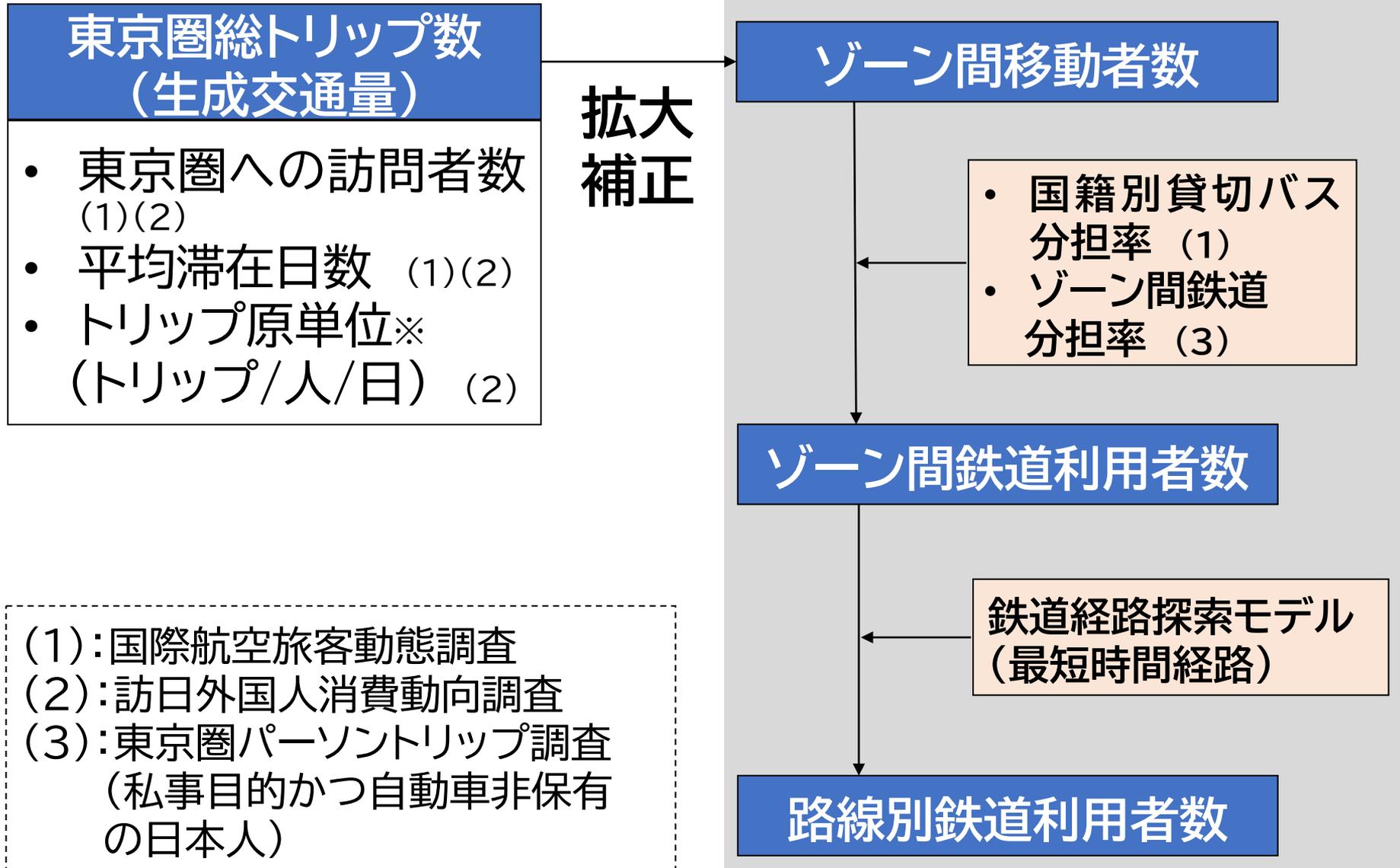
4章 モバイル空間統計データによる東京圏内のゾーン間移動者数の把握

上記データを掛け合わせて、  
鉄道利用者数を概算することはできないか？



- ゾーン間移動者数は、「各ゾーンに1時間以上滞在した人を対象」という特性から過小集計の可能性があるので、東京圏への訪問者数(3章)を用いて拡大補正
- ゾーン間移動者数(4章)に交通機関分担率を乗じてゾーン間鉄道利用者数を求め、経路探索モデルで路線別鉄道利用者を推計

# 5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計 路線別鉄道利用者数(概数)の推計フロー



## 5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計 路線別鉄道利用者数(概数)の推計フロー

	MIN	MAX
東京圏への訪問者数(万人/年)	1,133	1,317
平均滞在日数(日)	5.4	8.3
トリップ原単位(万トリップ/人/日)	36.8	65.8

- モバイル空間統計データによる1日あたりの総トリップ数は下記の通り

都心部の訪問者数 17.4万トリップ	+	郊外部の訪問者数 4.8万トリップ	=	総トリップ数 22.2万トリップ
-----------------------	---	----------------------	---	---------------------

表 1日あたりの総トリップ数比較(全目的)

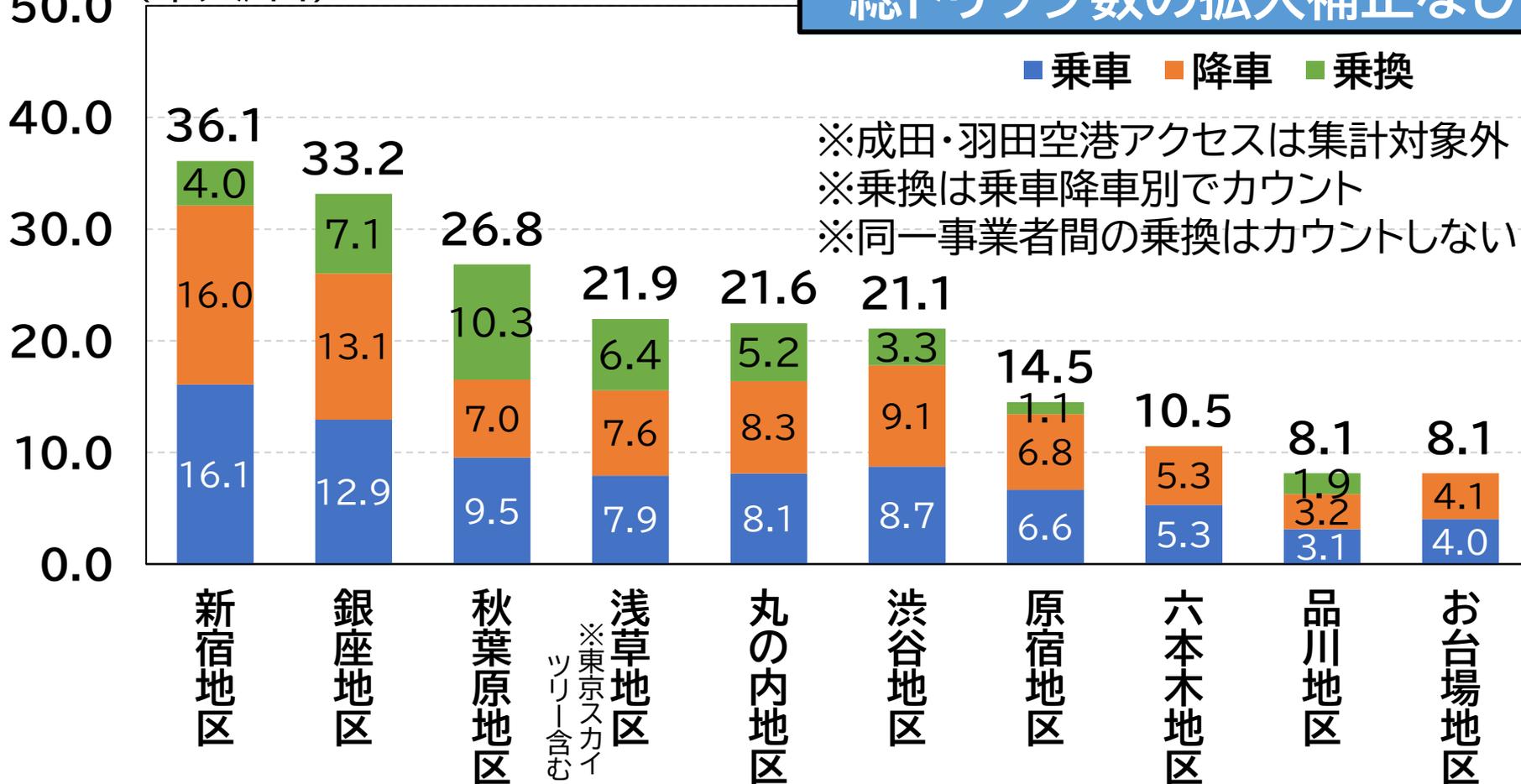
	モバイル 空間統計	官公庁による調査・統計	
		MIN	MAX
トリップ数(万トリップ)	22.2	36.8	65.8
モバイル空間統計との比率	<b>1.0</b>	1.7	<b>3.0</b>

鉄道利用者数は、**約1.0~3.0倍の幅を考慮して推計**する

# 5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計 地区別訪日外国人乗降人員の比較

(千人/日)

総トリップ数の拡大補正なし



- 地区別乗降人員(乗換人員含む)は、**新宿地区が最も多く**、次いで銀座地区が多い
- 乗換人員は秋葉原地区が最も多く**、各方面へのアクセス拠点になっている

## 5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計 訪日外国人利用者数(概数)と外国人割合(各社主要区間)

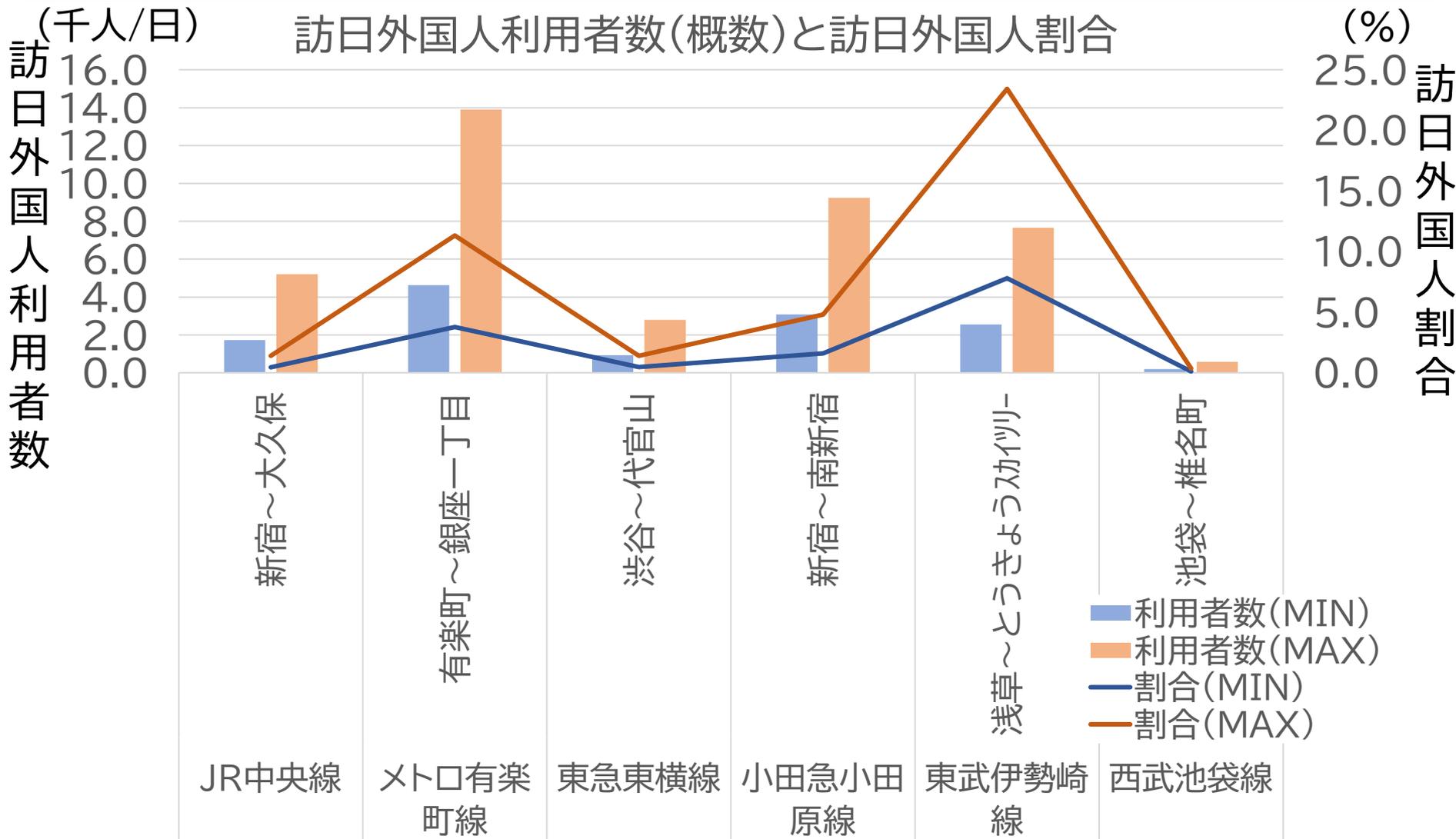
- 各社主要路線における人気訪問地区を含む1区間の利用者数を推計し、都市交通年報による定期外断面交通量との比較により、各区間における訪日外国人割合を推計した結果が以下の通り

表 主要路線の主要区間断面交通量と外国人利用者数・割合

路線	区間	訪日外国人利用者数 (千人/日)	定期外断面交通量 (千人/日)	訪日外国人が占める割合
JR中央線	新宿～大久保	1.7～5.2	372.9	0.5%～1.4%
メトロ有楽町線	有楽町～銀座一丁目	4.6～13.9	122.7	3.8%～11.3%
東急東横線	渋谷～代官山	0.9～2.8	199.5	0.5%～1.4%
小田急小田原線	新宿～南新宿	3.1～9.2	192.2	1.6%～4.8%
東武伊勢崎線	浅草～とうきょうスカイツリー	2.5～7.6	32.7	7.8%～23.4%
西武池袋線	池袋～椎名町	0.2～0.6	164.1	0.12%～0.4%

※総断面交通量は、平成28年版都市交通年報(平成26年度実績)をもとに整理

# 5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計 訪日外国人利用者数(概数)と外国人割合(各社主要区間)



・ 利用者数は東京メトロ有楽町線有楽町～銀座一丁目が多いが、外国人割合は東武伊勢崎線浅草～とうきょうスカイツリー間が多いと推計された

1. 背景と目的
2. 研究の進め方
3. 東京圏への訪問者数の推計
4. 訪日外国人の国籍別主要訪問地・宿泊地および観光ルートの分析
  - 4-1 モバイル空間統計の概要
  - 4-2 分析結果
5. 主要路線の訪日外国人鉄道利用者数の推計
- 6. まとめと課題**

## 東京圏への訪問者数の推計

- 東京圏への訪問者数(2017年)は、年間約1,133~1,317万人と推計された
- 東京圏への訪問率は全国籍平均で41.3~48.0%であるが、北米や欧州、その他の地域の訪問率は約7~8割と高い

## 訪日外国人の主要訪問地

- 都心部の訪問者数の約26%が新宿、銀座地区への訪問である
- 新宿地区は国籍によらず人気が高いが、銀座地区は中国籍の訪問者数が突出している
- 郊外部は、みなとみらいや箱根など、関東南部への訪問が多く、関東北部では日光東照宮周辺への訪問者が多い

## 訪日外国人の主要宿泊地

- 都心部は、訪問者数の多い渋谷、浅草地区の宿泊者数が少ない一方、訪問者数の少ない品川、赤坂地区の宿泊者数が多い
- 郊外部は、成田空港周辺が最も多く、新横浜も比較的多いことから、空港や新幹線駅へのアクセス性に優れた場所の宿泊者が多い

## 6. まとめと課題

# まとめ(4章と5章)と課題および今後の方向性

### 訪日外国人の観光ルート

- 都心部では、銀座、新宿を起点とするトリップが上位を占める
- 新宿、渋谷、原宿3地区を一体で周遊している可能性がある
- 郊外部では、箱根・御殿場方面へのトリップが多い
- 観光ルートの傾向として、中国は買い物目的、台湾は観光目的と思われる移動が多いなど、国籍による特性の違いが見られた

### 主要路線の鉄道利用者数の推計

- 乗降人員は新宿、銀座地区が多い一方、乗換人員は秋葉原が多い
- 主要6路線6区間のうち、東武伊勢崎線浅草～とうきょうスカイツリー間の外国人利用割合が最も高いと推計された

### 課題

- ✓ 訪問地点間の正確な観光周遊ルートがわかっていない点
- ✓ 訪日外国人の鉄道経路選択要因が明らかになっていない点

### 今後の方向性

※インバウンド需要回復後

- ✓ (上記に対して)訪日外国人への詳細なアンケート調査による分析の深度化
- ✓ 利用者国籍割合や利用者の多い時間帯の違いなど路線別特性の把握

ご清聴ありがとうございました